地域研究年報　**36**　2014　139–167

# 常総市大塚戸町における一言主神社信仰の特性

卯田卓矢・石坂　愛・上野李佳子・矢ケ﨑太洋・松井圭介

本研究では，常総市大塚戸町に所在する一言主神社を事例に，崇敬型神社における氏子地域の信仰の特性を地域内の信仰組織や社会組織との関係から明らかにすることを目的とした．一言主神社はその霊威により，古くから地域を越えた信仰を集めてきた．現在の参拝は，講社祈祷，個人祈祷，平参りの３者が確認でき，そのうち講社祈祷は半径25～45km 圏，個人祈祷は25km 圏内に参拝者が集中していた．

氏子地域である大塚戸町では，区，班，組の３つの自治組織が存在したが，住民間の身近な関わりは班を単位とするものであった．その中で，一言主神社は班内で選出される氏子総代の世襲制や階層性などの特性から，班よりも上位のスケールに位置した．一方，住民は元旦講や家族間の人生儀礼等により，神社との戸主別，また個人を単位とした関係も有していた．加えて，班単位の宗教講においても神社との関係がみられた．このように一言主神社との関係は，各スケールにおいて差異があることが確認できた．以上のことから，大塚戸町の住民は一言主神社と重層的な関係性を有していることが看取された．

**キーワード**：氏子地域，崇敬型神社，信仰，重層性，一言主神社，常総市大塚戸町

## Ⅰ　序論

### Ⅰ－１　研究課題

明確な宗教的聖地を有し，その聖地を中心に信仰が空間的広がりをみせる信仰形態に対して，地理学では主に信仰者の分布の地域的差異から信仰の空間構造を明らかにする信仰圏に関する研究が行われてきた．岩鼻（1983a）はこのような信仰形態のうち山岳宗教を取り上げ，奥宮が立地する山頂近辺の聖なる場所を「聖域圏」，里宮の立地する山岳宗教集落が核となる山麓部を「準聖域圏」，末社・分社が分布し，信徒が居住する周囲の平地を「信仰圏」とする３種の圏構造が把握できるとした．その上で，信仰を受容した地域の側から逆照射した地域構造の研究，すなわち信仰圏の研究が必要となると主張した（岩鼻，1983b）．

この信仰圏に関する研究は，岩鼻が対象とした山岳宗教を中心に，これまで長野（1987），金子（1997），筒井（1999，2001，2004，2009，2012），阪野（2003），廣本（2004）など，多数の研究が行われてきた[1)]．その中で，岩鼻（1992）は出羽三山を事例に，信仰者の年齢層や信仰形態，参拝習俗の差異などを指標とした第１～３次の同心円的信仰圏モデルを提示した．金子（1997）は青森県の岩木山を取り上げ，出羽三山のようなマクロスケールに対して小規模な圏構造の分析を試みた．また，松井（1995）は笠間稲荷神社を対象に，山岳宗教とは志向性が異なる宗教においても岩鼻などによって提示された同心円的信仰圏モデルが有効であることを実証した．最近では，講社や信仰者分布の歴史的変化に着目した研究が進められている（阪野，2003；廣本，2004；筒井，2001，2004など）．

以上のような信仰圏に着目した研究が蓄積される一方で，先に岩鼻が示した準信仰圏を取り上げた研究も少数ながら存在する．浅香（1959，

1963，1967）は木曽御嶽および大山の山岳宗教集落を対象とした一連の研究において，各地の檀那場（檀家圏）の巡回や登拝者を泊める宿坊経営を基盤として集落が形成されていることを明らかにした．また，岩鼻（1983a）は出羽三山の山岳宗教集落を起源の面から２つに分類し，両者の集落景観・社会構造・機能，檀那場との関係，明治以降の変遷などについて比較考察を行った．その他，英彦山を取り上げた長野（1979）の成果などがある．

ただ，これらの研究は山岳宗教を対象としており，異なる性格をもつ宗教において，集落や地域はいかなる様態であるのかについては十分に明らかにされていない．その中で，松井（1995）は笠間稲荷神社の信仰圏を論じる中で，氏子地域の信仰状況や神社との関わりについて言及している．松井は，同神社の氏子地域では氏子により担われる祭礼は少ないものの，各戸は氏子費の分担や氏子総代の選出など，神社の維持運営に一程度寄与していることを指摘し，氏子地域を山岳宗教における準聖域圏に準じるものとした．

松井が対象とした笠間稲荷神社は，地域を越えて各地に勧請された崇敬祈願型神社と呼ばれる系統の神社である．地域に所在する神社の性格には，大別して「氏神型神社」と「崇敬祈願型（勧請型）神社」の２種の系統が存在する．前者は，地域や祀る人々が限定された閉鎖的な共同祭祀が中心となる神社である．一方の崇敬祈願型神社（以下，崇敬型神社とする）は，神明社や八幡社，稲荷社，天満宮などに代表されるように，霊威のある神々が地域を越えて各地に勧請され，勧請された地域やその周辺では広域的な信仰が見られる神社である（岡田，1994）．先の松井の研究は，従来の山岳宗教中心の研究状況に対し，山岳宗教と同じく広域的な信仰圏を有する崇敬型神社と氏子地域との関係について論じたという点で重要である．

また，松井（2003）では，崇敬型神社である金村別雷神社の信仰圏にみられる地域的特性の解明を行う中で，氏子地域では神社の講組織は地域内の他の宗教組織や自治組織と融合しており，自立的な宗教組織としては機能していないこと，金村信仰は産土神や遠来の利益神とは異質の鎮守神として受容されていることなどを明らかにした．この研究は信仰圏研究の課題である各圏域の空間的意味の分析を目的としたものであるが，崇敬型神社やその氏子地域の特性を捉える上でも重要な指摘である．

また，ここで示されているように，氏子地域は単に崇敬型神社のみが信仰対象とされているわけではなく，地域内の他の信仰組織や社会組織との重層的・複合的な関係の中で信仰が受容されている．そのため，氏子地域を分析する際には，地域内にみられる様々な信仰や組織との関係，およびそのスケールに着目することが必要である．加えて，このアプローチは，複数の宗教が地域や個人を単位に複雑に絡まり合う日本の宗教的特性を地理学的な視点から解明する上においても重要であると考えられる．

以上を踏まえ，本研究では崇敬型神社における氏子地域の信仰の特性を地域内に存在する信仰組織や社会組織との関係から明らかにすることを目的とする．研究対象地域は常総市大塚戸町の一言（ひとこと）主（ぬし）神社とその氏子地域である．

一言主神社は一言主大神を祭神とし，一言願えば「…何事もよく道理をわきまえ，良い事につけ，良からぬ事（心配事，病気，災難）につけ，良く聞き分けて人々の幸福のために直ちに御利益を授け」[2]てくれる言行一致の神，また万能神として茨城県南地域を中心に広く信仰を集める神社である．かつては９月13日の秋季例大祭の日に参拝者が集中する傾向が見られたが，現在では例大祭に限らず，正月や月次祭，また平日においても多数の参拝者が訪れる．

一言主神社の氏子地域は神社が鎮座する常総市大塚戸町全域を範囲としており，同町には氏子総代を代表とする氏子組織が存在する．本研究ではこの一言主神社と氏子地域との関係について検討を行う．

以下，研究の手順について述べておく．Ｉ－２では本研究の対象地域である大塚戸町について概

観する．Ⅱでは一言主神社の歴史と現在の信仰形態について述べる．Ⅲでは，大塚戸町の社会組織および信仰組織について検討する．Ⅳでは，これら組織の活動を踏まえた上で，一言主神社と大塚戸町の関係とその特性を考察し，Ⅴで結論とする．

調査方法は，一言主神社社務所所蔵資料の分析および一言主神社関係者，大塚戸町の住民，後述する平参りの参拝者への聞き取り調査に依った．この聞き取り調査は，2013年５月から７月にかけて実施したものである．

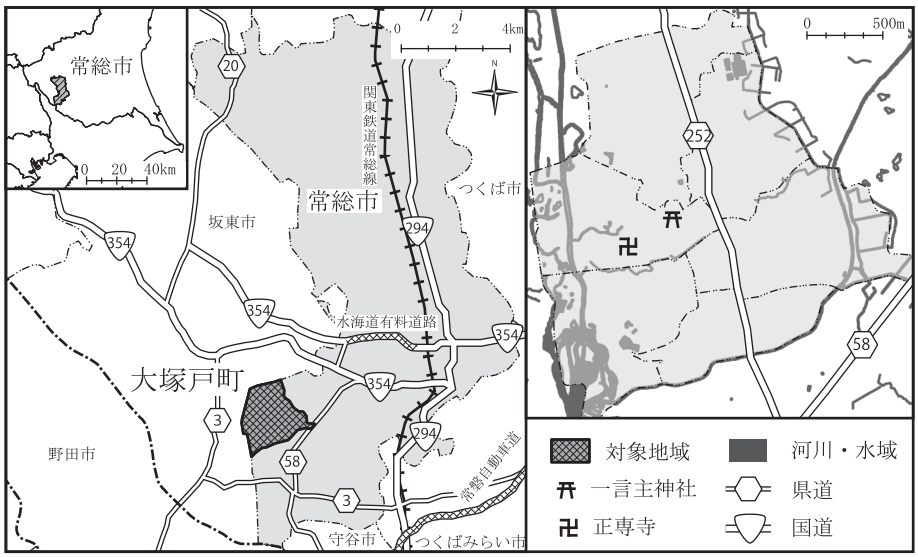
### Ⅰ－２　研究対象地域

#### １）常総市大塚戸町

常総市は茨城県西地域に位置し，東部につくば市，つくばみらい市，西部に坂東市，南部に守谷市，千葉県野田市の各市町と隣接する（第１図）．海抜10～20m 平均の平坦な起伏をもつ市の中央部には鬼怒川が流れ，東部にはつくば市と市境となる小貝川，西部付近に東仁連川が流れる．主要幹線は，旧水海道市中心部を東西に走る国道354号線や下妻市から守谷市へと南北に抜ける国道294号線，また鬼怒川東側を通る関東鉄道常総線などがある．

常総市の中心市街地は関東鉄道常総線の水海道駅を中心とする地域である．2004年のつくばエクスプレス開業により発展を遂げている守谷市と隣接する内守谷町では宅地開発が進行し，人口増加が顕著である．また，常総市から南へ５km ほど先に常磐自動車道谷和原インターチェンジがあり，インターチェンジと接続する国道294号線沿線には多数の郊外型店舗が見られる．

次に常総市の行政区域の変遷について述べておく．1871年の廃藩置県において当時下総国豊田郡所属であった水海道村は印旛県（のちの千葉県）の管轄となり，水海道駅に改称した．1876年には水海道駅の全域が茨城県の管轄となる．その後，1889年の町村制施行に伴い水海道駅は水海道町に変更された．1896年には豊田郡，岡田郡および結城郡が統合され，水海道町はこの結城郡所属となった．戦後，1954年に結城郡菅原村，大花羽村，三妻村，五箇村，大生村，豊岡村，北相馬郡坂手村の７か村を編入し，水海道市が誕生した．翌年には筑波郡真瀬村の一部，同郡谷和原村大字川又を編入，1956年に当時北相馬郡であった守谷村と菅生村を編入し，市域を拡大した（水海道市史編さん委員会編，1985）．その後，2006年に結城郡石下町との編入合併により，市名を常総市へ改称した．2013年４月１日現在の人口は66,246人であ




第１図　研究対象地域図

る．

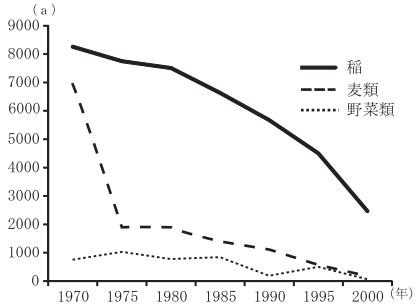
次に，常総市大塚戸町について概説する．大塚戸町は常総市の南西部に位置し，菅生沼を境界として坂東市と隣接する．南は西流して飯沼川に注ぐ東仁連川を境に常総市菅生町に接する（第１図）．町の中央部には南北に県道251号守谷藤代線（1994年に旧藤代板戸井岩井線から改称）が横断しており，ニュータウン開発が進む内守谷町きぬの里や守谷市からのアクセスも比較的よい．1979年には同町向山に菅生沼の自然景観を生かした「あすなろの里学童農園」（現水海道あすなろの里）が開園した．

大塚戸町は1956年までは北相馬郡の管轄にあった．北相馬郡は1878年に現在の千葉県と茨城県の範囲にあたる相馬郡を南北に二分したものであり，当時の北相馬郡は現在の北相馬郡利根町，守谷市全域，取手市のほぼ全域，常総市の旧坂手村，旧菅生村，旧内守谷村，つくばみらい市の旧小絹村，旧長崎村などの範囲であった．また，南相馬郡は現在の千葉県柏市の一部と我孫子市を範囲とした．1889年の町村制施行に伴い，大塚戸町は隣接する菅生村と合併し，北相馬郡菅生村大字大塚戸となった．大正半ばごろの菅生村全体の戸数は538戸，人口は3,463人であった（野口，1918）．その後，1956年に同郡菅生村と内守谷村が水海道市に編入したことで菅生村は消滅し，水海道市菅生町および大塚戸町が誕生した．

### （1）大塚戸町における農業形態と戸数の変遷

大塚戸町はそのほとんどが丘陵地の畑作地帯であり，これまで陸稲，麦，タバコ，茶，蔬菜類などの栽培が行われてきた（冨村，2000）．しかしながら，高度経済成長期以降になるとこれらの作付面積は減少した．第２図は1970年から2000年の大塚戸町における稲，麦類，野菜類の作付面積の推移を示したものである．これによると，当期間において稲は約７割減，麦類は９割以上減，野菜類は約８割減とそれぞれ大幅に減少していることがわかる．

次に戸数と農家数の変遷についてみると（第１表），大塚戸町の戸数は1970年の221戸，1980年の226戸，1990年の233戸と，1990年までの20年間においては微増傾向にあった．しかし，2000年になると321戸と約90戸の増加が確認できる．一方，農家数は1970年に193戸と総戸数の９割近くが農家であったが，その後は年々減少し，2005年時点では農家数67戸と総戸数の４割程度となった．以上の変化については，周辺地域の都市化の進展や，就業意識の変化がその要因として考えられる．2013年４月現在の大塚戸町の総戸数は309戸，人口は1,049人である（住民基本台帳による）．




第２図　大塚戸町における作物種別作付面積の変遷

注）1990年以降は販売農家数についてのみ集計．

（農林業センサスにより作成）

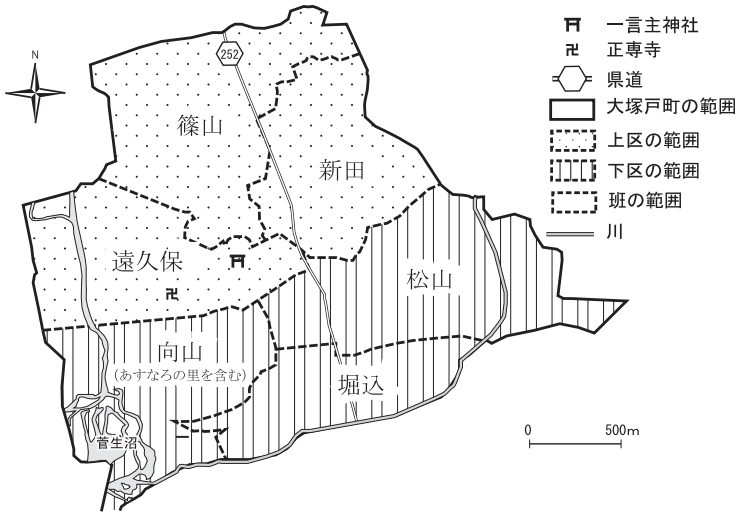
第１表　大塚戸町における戸数と農家数の変遷（1970～2005年）

| 年 | 総戸数 | 農家数 | 非農家数 |
|---|---|---|---|
| 1970 | 221 | 193 | 28 |
| 1975 | x | 189 | x |
| 1980 | 226 | 178 | 48 |
| 1985 | x | 168 | x |
| 1990 | 233 | 153 | 74 |
| 1995 | x | 143 | x |
| 2000 | 321 | 123 | 198 |
| 2005 | x | 67 | x |

注１）2005年は販売農家のみ集計．

注２）データ無しの項目についてはｘとする．

（農林業センサスにより作成）




第３図　大塚戸町における区・班の範囲（2013年）

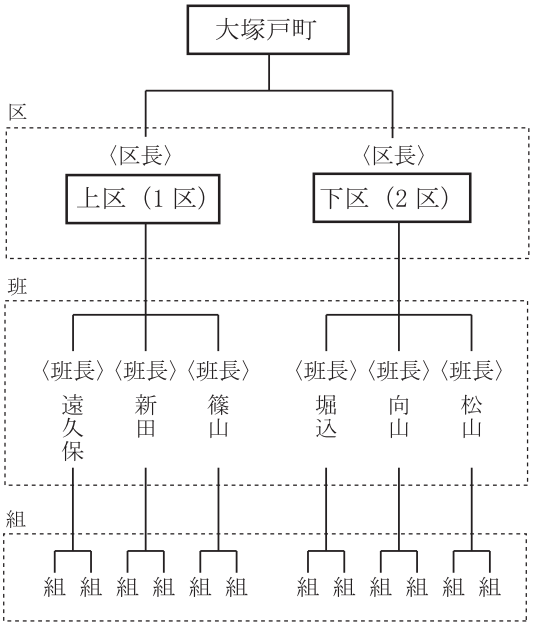
（聞き取り調査により作成）

### (2)　大塚戸町における社会組織と信仰組織の概要

ここでは大塚戸町に存在する社会組織と信仰組織について概観する．当町の社会組織は町を南北に二分した区を単位とする社会組織と，区の下部組織である班，およびその下部組織である組を単位とする組織から構成される．信仰組織は一言主神社の氏子組織のほか，伊勢講，三峰講，観音講，念仏講などが存在する．ただし，講組織は衰退傾向にある．

大塚戸町の社会組織のうち，区は上区（または１区とも言う）と下区（または２区とも言う）に分かれ，それぞれの区には区長がいる．この上区の範囲は，第３図にあるように大塚戸町の小字集落のうちの遠久保，新田，篠山，下区は堀込，向山，松山に一致する．班（坪とも言う）は６つ存在し，小字集落と同範囲である．班の代表である班長は輪番制により決まり，任期は１年である．班の下部組織の組は班内に２つ存在する（第４図）．組には組頭と呼ばれる代表者がおり，任期は班長と同じく１年である．

また，区および班にはかつて青年会や婦人会，老人会といった年齢階梯組織が存在した．しかしながら，就業構造や価値観の変化などにより，それらの組織の多くは衰退，あるいは解散したという．現在も活動を継続しているのは，青年会では３つの班，婦人会では２つの班となっている．




第４図　大塚戸町における自治組織（2013年）

注）各組には組頭がいる．

（聞き取り調査により作成）

次に，信仰組織についてみると，大塚戸町には

一言主神社に関わる組織として氏子組織と，この組織とは別の元旦講が存在する．氏子組織の代表である氏子総代は各班から１名ずつ，計６名選ばれる．選出方法は世襲制であり，任期はない．元旦講は元日に一言主神社へ米や餅などを献納し，引き換えに家名入りの神札を貰い受けるものである．元旦講は厳密には組織ではないが，住民は組織的に関わっている．

大塚戸町では町を単位とした伊勢講，班を主たる単位とする三峰講，観音講，念仏講などがある．伊勢講は講員から集められた積立金をもとに伊勢参宮を行うものである．積立金が満額になる約５年ごとに講員有志20～40名ほどで参拝を行っている．直近の参拝は2010年５月であった．

三峰講，観音講，念仏講などの組織は上記した班の社会組織と同様に衰退，あるいは消滅している班が少なくない．このうち，三峰講は火防の神である三峰神社を信仰するものである．現在は堀込地区と向山地区が活動を続けている．堀込地区では，５名の代表者が毎年三峰神社へ参拝（代参）し，神社から貰い受けた神札を各戸に配布している．

観音講は縁日に女性が各地区の集会所に集い，親睦を深めるものである．参加する女性は婦人会員も兼ねており，そのため婦人会の活動の一環として行われている班も存在する．

念仏講は班の集会所などに集まって念仏を唱えたり，町内の葬儀の時に供養の念仏を唱えたりするものである．かつては町や班を単位とする組織のほか，２つの班が共同で行う講も存在した．しかし，参加者の減少や高齢化などもあり，現在はいずれの念仏講も衰退している．

## Ⅱ　一言主神社の歴史と現在の信仰形態

本章では，一言主神社の歴史と現在の信仰形態について検討する．具体的に，Ⅱ－１では一言主神社の歴史と境内景観，および現在の神社組織について言及する．Ⅱ－２では年間行事について述べる．Ⅱ－３では，一言主神社の現在の信仰形態を類型し，それぞれの特性と分布について検討を加える．

### Ⅱ－１　一言主神社の歴史的展開

#### １）一言主神社の縁起と歴史

一言主神社は大塚戸町の中央部，県道251号線近隣に立地する．祭神の一言主大神は別名事代主神（ことしろぬしのかみ）と呼ばれ，出雲国の大国主神（おおくにぬしのかみ）（出雲大社）の長子とされる．この事代主神の事は「言」，代は「しるし」であり，一言願えばしるしを与え叶えてくれるとされ，そのため一言主神と称されるようになった（冨村，2000）．

一言主神社は，元は760年に大和国・葛城山の麓に建立され，809年陰暦11月13日に大塚戸の宮内（現神社の西方）へ勧請された．この時，現在の社殿近くに怪光が現れ，雪の中から筍が生じ，三岐の竹となったという伝承が残されている．一言主神社は三竹山一言主神社とも呼ばれるが，これは「三岐の竹」に由来している．1459年に下総国守谷城主相馬胤弘（平将門の後裔）により現在地に社殿が造営された（冨村，2000）．江戸期には当地が田安宗武およびその子孫の領地となったことから，毎年陰暦11月13日の祭日に行列を整えて参詣することが習わしになった．

明治になると神仏分離令により，これまで管理を担ってきた普光寺が廃され，僧卓寿は一言主神社初代神官となった．また，明治末ごろより始まった神社合祀政策によって，当時大塚戸の各集落に所在した神社が1909年４月に一言主神社に合祀された．各神社と所在地については，第２表に示したように，遠久保地区の道祖神社，浅間神社，厳島神社，雷神社，新田地区の八坂神社，大日霊神社，篠山地区の白髭神社，堀込地区の三王神社，向山地区の三峰神社，愛宕神社，八幡神社，松山地区の天神社，妙見神社の計13社である．当時は大塚戸に限らず各地で神社合祀が盛んに行われており，茨城県内では1900年に2,724社あった無格社が1917年には半数以下の1,218社に減少した（森岡，1987）．

このころの一言主神社は，「地方に於て有名な

第２表　神社合祀以前における各集落の神社

| 集落名 | 神社名 |
|---|---|
| 遠久保 | 道祖神社<br>浅間神社<br>厳島神社<br>雷神社 |
| 新田 | 八坂神社<br>大日霊神社 |
| 篠山 | 白髭神社 |
| 堀込 | 三王神社 |
| 向山 | 三峰神社<br>愛宕神社<br>八幡神社 |
| 松山 | 天神社<br>妙見神社 |

（一言主神社社務所所蔵資料により作成）

る霊社なり」と記されているように（伊藤編，1918：13），周辺地域においてよく知られていた．また特に，後述する秋季例大祭の際に催されるからくり綱火が著名であった．例えば，1913年刊行の『常総鉄道名勝案内』には，「毎年陰暦八月十三日例祭の際に夜を徹して挙行する大烟火は規模の雄大と技術の精妙とを以て知られ関東一の名あり，眞に一大壮観とすべく，当日遠近より来観の人極めて多し」と述べられている（常総鉄道株式会社編，1913：24）．

他方で，一言主神社の祭神である一言主大神の霊威にまつわる信仰も存在した．上記のように，一言主神社はどんな願い事でも一言だけ叶えるとされ，旧鹿島郡や旧行方郡では徴兵検査で合格を免れた，どこの医者にも見放された病人が全快した，日露戦争の際に招集令が来なかったなどの話が聞かれたという．そのため，同地域から多くの参拝者が訪れた．また，一言主大神は一生にただ一度しかご利益を受けられないとされ，何か非常のことがあるとその家族が祈願することがあった（堤，1970）．

戦後になると，各地で多数の講社が組織されるようになり，講社参拝が増加した．一言主神社への聞き取り調査によると，特に1960年代後半ごろには９月13日の例大祭日にバス500台ほどの来場があったという．ただ，講社参拝は1970年代半ばごろまでがピークであり，以降は減少･衰退した．そのため，神社では講社から個人へ参拝を誘引する種々の対策を講じるようになった．具体的には，看板の設置や広告宣伝（写真１），常時の昇殿祈祷の実施，祈祷料の明確化などを試みたという．その結果，現在では個人参拝が多数を占め，特に正月には東京都や神奈川県，栃木県など遠方の地域を含め多くの参拝者が訪れるようになった．一言主神社によると，現在の正月三が日の参拝者は15万人ほどであるという．

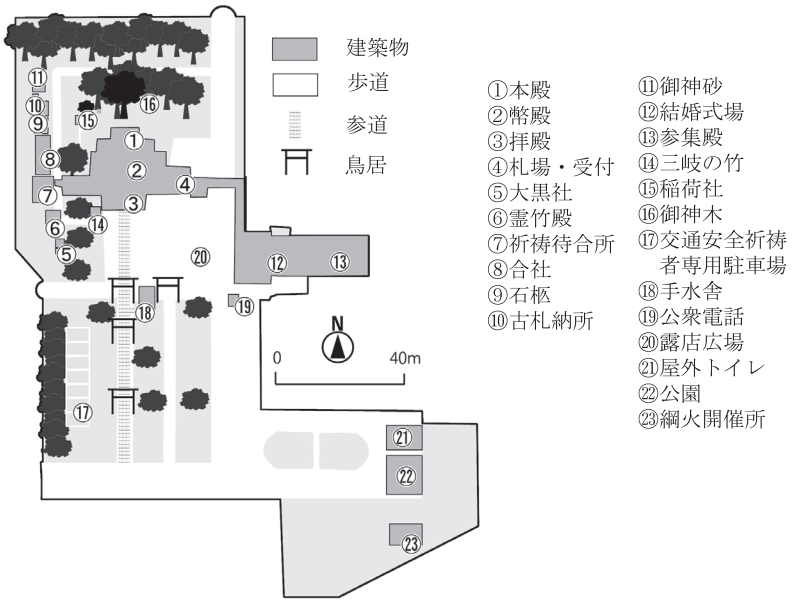
### ２）一言主神社の境内景観と現在の神社組織

第５図は現在の一言主神社の境内を示したものである．境内には本殿，幣殿，拝殿などの主要施設を中心に，祈祷待受所，霊竹殿，結婚式場，集参殿などがある．一間社流造の本殿は1459年に相馬胤弘が造営し，1700年にこの本殿を手本に再建されたものと考えられている（水海道市教育委員会編，1986）．本殿はその後，1940年に紀元2600年記念事業として藁屋根葺替え工事，戦後の1970年には明治百年を記念し幣殿・拝殿とともに増改築（屋根銅版葺替え）が執り行われた（写真２）．

第３表は，1970年から1992年における境内施設の整備・改修状況をまとめたものである．これを見ると，一言主神社では1973年以降，ほぼ毎年境

写真１　一言主神社の看板

（2013年５月　卯田撮影）




第５図　一言主神社の境内図（2013年）

（一言主神社社務所所蔵資料により作成）

写真２　一言主神社社殿

（2013年５月　卯田撮影）

内施設の整備・改修を行っていることがわかる．そのうち，新築工事については，参集殿（1973年），写真撮影室（1977年），結婚式場（1978年），大鳥居（1981年），境内警備見張り小屋（1982年）など，20余りを行っている．当該期の一言主神社は，例大祭への講社参拝が盛んだった時期であり，種々の改修・新設は講社による寄付をもとに進められたものと推察される．また，境内には常夜燈や鳥居，玉垣などがみられるが，これらは全て崇敬者から奉納されたものである．

現在の一言主神社の境内面積は約2,800坪を有する．1940年刊行の『茨城県神社誌』では1,962坪とされており，現在は当時より１千坪近く境内が拡張している．一言主神社への聞き取り調査によると，境内の増加分の大半は駐車場であるという．現在の同神社の駐車場は，第６図に示したように，神社周辺に大小４か所ほど存在し，計500台ほどの駐車が可能である．このうち，神社南に立地する駐車場は約250台収容でき，1999年に市から土地を取得したものである．こういった駐車場の拡張についても，戦後以降の講社や個人参拝者の増加に伴う対応策の一環であると考えられる．

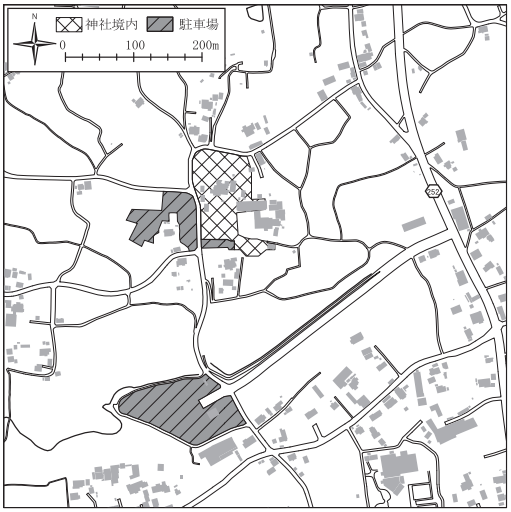
次に，一言主神社の組織について言及する（第７図）．現在の一言主神社の組織は，宮司１名と宮司の息子である禰宜（ねぎ）１名，権禰宜（ごんねぎ）４名（うち２名が女性）の計６名，および１名の非常勤神官から構成されている．

現宮司は1989年に先代の父親から引き継ぎ，６

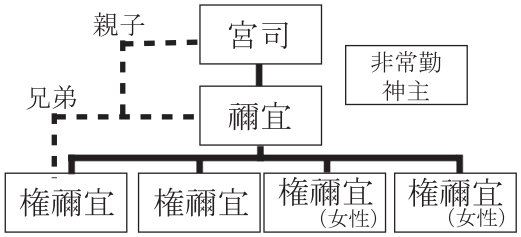
第３表　一言主神社における諸施設の整備・改修の推移（1970～92年）

| 年度 | 整備・改修事項 |
|---|---|
| 1970 | 本殿・幣殿・拝殿増改築（屋根銅版葺替え） |
| 1973 | 参集殿新築工事（鉄骨二階建） |
| 1975 | 東神札授与所新築工事 |
| | 手水舎新築工事 |
| 1977 | 写真撮影室新築工事 |
| 1978 | 結婚式場新築工事（木造及び鉄骨二階建） |
| | 結婚儀式殿内神殿新築工事 |
| 1979 | 渡廊下増改築工事（一部） |
| 1980 | 渡廊下改築工事（鉄骨建） |
| | 駐車場舗装工事 |
| | 西神札授与所新築工事 |
| 1981 | 本殿外塀新設（鉄骨） |
| | 第一神明型大鳥居新築工事 |
| 1982 | 境内警備見張り小屋新築工事（二階建） |
| 1983 | 末社（13 社）新築工事（鉄筋） |
| | 末社（13 社）新築工事（木造） |
| | 参道敷石修復工事 |
| 1984 | 参拝者公衆便所新築工事 |
| 1985 | 祭器庫新築工事（10.5 坪） |
| | 拝殿浜縁改築工事 |
| | 外拝殿新築工事 |
| | 霊竹殿新築工事 |
| | 拝殿敷石工事（敷替え） |
| 1987 | 事務所新築工事（木造銅葺） |
| 1989 | 私設公園擁壁工事 |
| 1990 | 古札納処新築工事 |
| | 事務所玄関新築工事 |
| 1991 | 神社表門駐車場工事 |
| 1992 | 控室新築工事（鉄骨二階建） |

（一言主神社社務所所蔵営繕記録により作成）




第６図　一言主神社の駐車場の位置（2013年）
（一言主神社社務所所蔵資料により作成）




第７図　一言主神社の組織図（2013年）
（聞き取り調査により作成）

代目の宮司となった．また同時期に宮司の息子が禰宜の資格を取得し，神職として神社に務めた．この禰宜の加入により，明治以降初めて神官の常駐が可能となった．1991年には権禰宜３名を増員し，その後宮司の息子（禰宜の弟）である権禰宜を新たに加えた．また，現在は修繕係（常勤職員）が１名いるほか，シルバー人材センターから雇用された清掃員２名により境内清掃が毎日行われている．

### Ⅱ－２　一言主神社の年間行事

一言主神社は陰暦11月13日に勧請されたことから，神社では13日を祭礼日と定めている．そのため，月次祭を始め，春季祭（４月13日，写真３），秋季例大祭（９月13日），新嘗祭（12月13日）などの主要祭事はすべて13日に執り行われる（第４表）[3]．

その中で，秋季例大祭（以下，例大祭とする）は一言主神社の重要祭事であるとともに，俗に「花火祭り」と呼ばれ，一般によく知られている．例大祭は，かつては陰暦８月13日の前後３日間にわたって行われていた．その後，1915年に陽暦９月13日に改正し，１日限りとなった．当日は神事のあと，夜から奉納特殊花火が催される．この特殊花火はからくり綱火（つなび）（以下，綱火とする），また糸繰花火・糸繰りとも呼ばれ，あやつり人形と仕掛花火を結合させたもので，空中に張りめぐらした綱により花火のついた人形（木偶（でく））を操作し，

写真３　春季祭の様子

（2013年４月　卯田撮影）

第４表　一言主神社の年間行事

| 月 | 日 | 行事名 |
|---|---|---|
| 1 | 1 | 元旦祭 |
| 4 | 13 | 春季祭 |
| 7 | 第４日曜日 | 子ども神輿祭 |
| 9 | 13 | 秋季大祭，綱火 |
| 10 | 25～11月24日 | 菊花祭 |
| 12 | 13 | 新嘗祭 |

注１）春季祭は俗に植木祭とも呼ばれる．

注２）毎月13日に月次祭，毎月第３日曜日に骨董市が行われる．

（聞き取り調査により作成）

芝居を演じる仕組みとなっている（千田，2005）．

綱火の起源は1659年に向山地区に三峰神社が勧請されるにあたり，住民が花火を奉納したのが始まりとされる（横島，1978）．この火祭りが成功したことを受けて，８月13日に鎮守社の一言主神社，14日に向山地区の三峰神社，15日に同地区の八幡神社で奉納されることが慣例化された（横島，1978）．明治になると，一言主神社への奉納行事としてのスタイルが確立した．現在は1969年に結成された大塚戸芸能保存会の手により続けられている．なお，綱火は1980年に水海道市指定文化財，1999年には茨城県指定無形民俗文化財に指定された．

一言主神社では江戸末から明治ごろより綱火を鑑賞するために遠方から多数の見物人や参拝者が訪れた．戦後になると講社を介しての参拝者が増加し，特に千葉方面からの参拝者が多数を占めた．一言主神社への聞き取り調査によると，1960年代後半ごろの最盛期には当時のバスの予約を一年前に行わないと取れないほどであったという．

７月の第４日曜日は大塚戸子ども神輿祭が催される．これは大塚戸町に子どもを対象とした神輿や山車などの行事が存在しないことから，住民の要望により1993年に開始されたものである．神輿祭は大塚戸町の行事であり，正式には一言主神社の行事ではない．ただ，神社では神輿祭を始めるにあたり神輿を購入するなどの協力を行い，また現在も禰宜が子ども神輿会の副会長を務めており，関わりは深い．当日は一言主神社で神幸や安全祈願を行ったあと，各地区を巡回する．

10月25日から11月24日にかけて一言主神社境内において菊花祭が催される．この菊花祭は1984年ごろに現在の宮司の呼びかけで始まった．菊の栽培や提供は大塚戸町の住民を中心とする一言主神社菊花会により行われる．展示される菊は現在400鉢ほどを数える．また，この時期は七五三詣と重なることもあり，期間中は連日多くの参拝者で賑わう．一言主神社への聞き取り調査によると，菊花祭を催すことで七五三詣に彩りを与える効果を作り出しているという．

また，一言主神社では毎月第３日曜日に境内で骨董市が開かれている．これは栃木県真岡市の大前（おおさき）神社の骨董市に携わる組織が中心となり開催されているものである．骨董市の規模は茨城県最大級であるとされ，来場者は広範囲に及ぶ．

加えて，神社境内では連日，花卉や大判焼きの露店２～３店舗が出店している．露店は水海道街商組合に加盟しており，露店主の多くは大塚戸町や周辺の住民であるという．毎週末には５店舗ほどに増え，月次祭や春季祭には20店舗ほどが軒を並べる．この露店の出店からもうかがえるように，一言主神社では祭日を問わず年間を通した参拝者が見られる．

### Ⅱ－３　現在の一言主神社の信仰形態

一言主神社における信仰者の宗教行動は主として参拝である．この参拝行動は信仰者により，①講社による昇殿祈祷[4]，②個人による昇殿祈祷，③昇殿祈祷を伴わない参拝（以下，平参り参拝者とする）の３つに大別することができる．以下，各信仰者の特性とその分布について検討する．

#### １）分析に用いた資料

本節では分析を進めるにあたり，①と②については一言主神社社務所所蔵資料（以下，一言主神社資料）の閲覧および一言主神社関係者，大塚戸町の住民への聞き取り調査，③については平参り参拝者への聞き取り調査を実施した．

一言主神社資料は2011年の講社資料と2012年の個人祈祷の申込書の２点である[5]．このうち，前者の資料は団体御祈祷芳名簿であり，同年の例大祭において昇殿祈祷を行った際の申込書である．また，後者については，2012年１月１日から12月31日までの計13,385件を対象とした．

平参り参拝者への聞き取り調査は，2013年５月21日から24日および７月４日の計５日間（いずれも平日）に一言主神社境内において実施した．対象者は計17名である．質問項目は参拝者の居住地，性別，年齢，祈願内容，参拝頻度，一言主神社を選択した理由，例大祭および元日の参拝経験などである．聞き取りは１名につき10～15分程度行った．

#### ２）講社祈祷

講社による祈祷は，地縁あるいは同職仲間により結成された講を単位に一言主神社に訪れ，昇殿祈祷を行うものである．一言主神社への聞き取り調査によると，講社は地縁的結合により結成されたものがほとんどであるという．また，参拝は講社の代表者が来訪する「代参」ではなく，講員全てが参拝する「総参」を行う講社が多い．

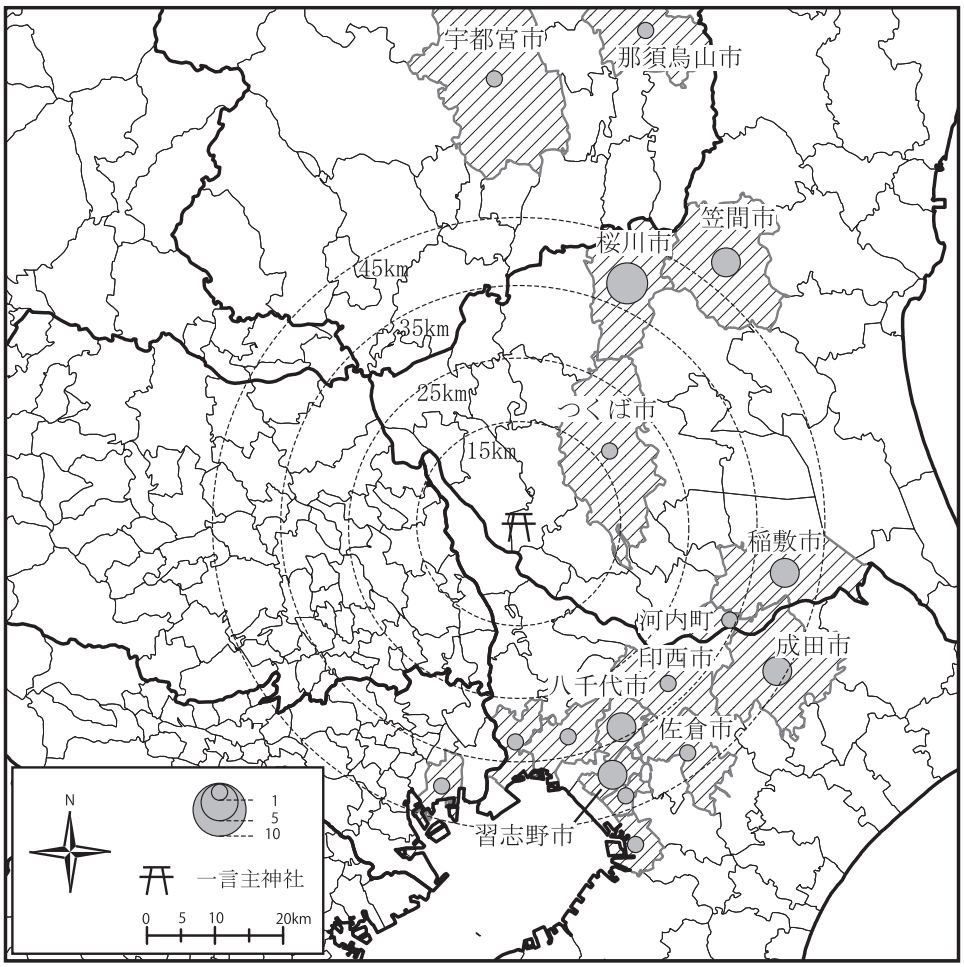
神社では10名以上の参拝組織を講として認定している．ただし，講結成の際の規則などは設けていない．講社は９月13日の例大祭当日に参拝し，祈祷を行うことがほとんどであり，講社の９割近くが大祭日に昇殿祈祷を行う．その際，講員20名以上の場合，祈祷総額が２割引きとなり，10名以上20名未満の場合は１割引きとなる．また，例大祭日の昇殿祈祷の時刻は後述する平時とは異なり，午前６時，７時，８時，９時，10時，11時，午後０時，13時，14時，15時，16時，17時，18時の一日合計13回執り行われる（写真４）[6]．

次に，2011年の講社資料から講社の分布について検討する[7]．第８図は講元（無記名の場合は世話人）の所在地をもとに講社の分布を示したものである．同年の講社は１都３県にわたり，計25社確認できる．都県別の分布は茨城県の12社が最多であり，以下，千葉県11社，東京都１社，栃木県１社となっている．

次に市区町村別の分布をみると，茨城県では桜川市６社，笠間市２社，稲敷市２社などとなり，県西地域とりわけ桜川市を中心に講社が分布している．千葉県では八千代市３社，成田市２社，佐倉市１社，船橋市１社，印西市１社，千葉市１社などとなり，千葉県北西部に講社が分布している．以上の地域は一言主神社から半径25～45km 圏内に位置しており，講社は同圏内から来訪していることがわかる．

次に，各講社における講員の祈願内容について検討する．第５表は講社（講員）を対象とした昇殿祈祷の祈願項目である．項目は，家内安全，商

写真４　例大祭日の講社祈祷の様子
（2013年９月　卯田撮影）




第８図　一言主神社における講社の分布（2011年）

（一言主神社社務所所蔵資料により作成）

第５表　講社による昇殿祈祷の祈願項目

| | | | |
|---|---|---|---|
| •家内安全 | • 商売繁盛 | •心願成就 | •病気平癒 |
| •身体健全 | •安産満足 | • 良縁満足 | •進学成就 |
| • 交通安全 | •災厄消除 | •儲子祈願 | • 学業成就 |
| • 大漁満足 | • 工場安全 | •旅行安全 | •方除祈願 |
| • 初宮祈願 | •必勝祈願 | | |

（一言主神社社務所所蔵資料により作成）

売繁盛，心願成就，病気平癒，身体健全など18種あり，後述する個人による昇殿祈祷の祈願項目と若干異なる．第６表は，各講社の講員の祈願内容を示したものである．これによると，家内安全を祈願する者が多く，講員全体の69％と卓越している．家内安全はほとんどの講社において講員の祈願内容の第１位であり，そのうち講員全てが家内安全を祈願した講社は３社，７割以上の講員が祈願した講社は12社と半数近くを占めており，家内安全は講社における一般的な祈願内容であることがわかる．次に祈願内容が多いのは身体健全であり，以下，商売繁盛，心願成就と続く．しかしながら，その比率は11％，７％，３％と少数である．家内安全が卓越している点は，次項で詳述する個人による昇殿祈祷の祈願内容と大きく異なる．個人の祈願内容において最多を占めるのは厄除けであり，以下，家内安全，交通安全，方除祈願など

第６表　各講社における講員の祈願内容（2011年）

| 講社所在地 | 厄除け | 家内安全 | 交通安全 | 方除祈願 | 身体健全 | 病気平癒 | 七五三詣 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 千葉県千葉市稲毛区 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 0 | 3 | 10 |
| 茨城県稲敷郡河内町 | 0 | 16 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 20 |
| 千葉県八千代市 | 0 | 23 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 23 |
| 千葉県佐倉市 | 0 | 9 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 12 |
| 茨城県桜川市 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 3 | 6 |
| 茨城県桜川市 | 0 | 18 | 0 | 0 | 12 | 0 | 0 | 5 | 35 |
| 茨城県桜川市 | 0 | 7 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 9 |
| 千葉県成田市 | 0 | 14 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 3 | 20 |
| 茨城県笠間市 | 0 | 16 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 6 | 23 |
| 千葉県船橋市 | 0 | 11 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 |
| 千葉県八千代市 | 0 | 45 | 0 | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | 53 |
| 茨城県桜川市 | 0 | 29 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 | 35 |
| 茨城県桜川市 | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 11 |
| 千葉県市川市 | 0 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 9 |
| 東京都江東区 | 0 | 2 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 4 | 13 |
| 茨城県桜川市 | 0 | 5 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| 茨城県稲敷市 | 0 | 10 | 3 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 15 |
| 茨城県笠間市 | 0 | 6 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 千葉県八千代市 | 0 | 29 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 16 | 45 |
| 千葉県印西市 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 6 |
| 茨城県稲敷市 | 0 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 8 |
| 千葉県成田市 | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| 茨城県常総市 | 0 | 10 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 16 |
| 栃木県宇都宮市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 4 | 6 |
| 千葉県香取郡多古町 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 |
| 合計 | 1 | 287 | 7 | 0 | 44 | 7 | 0 | 65 | 404 |

注１）数値は人数を示す．
注２）着色箇所は各講社における祈願内容の第一位を示す．

（一言主神社社務所所蔵資料により作成）

となる．一方，講員の中で厄除けを祈願した者は１，交通安全７，方除祈願０，であった．以上のことから，講員と個人による祈願内容に明確な差異があることが看取される．

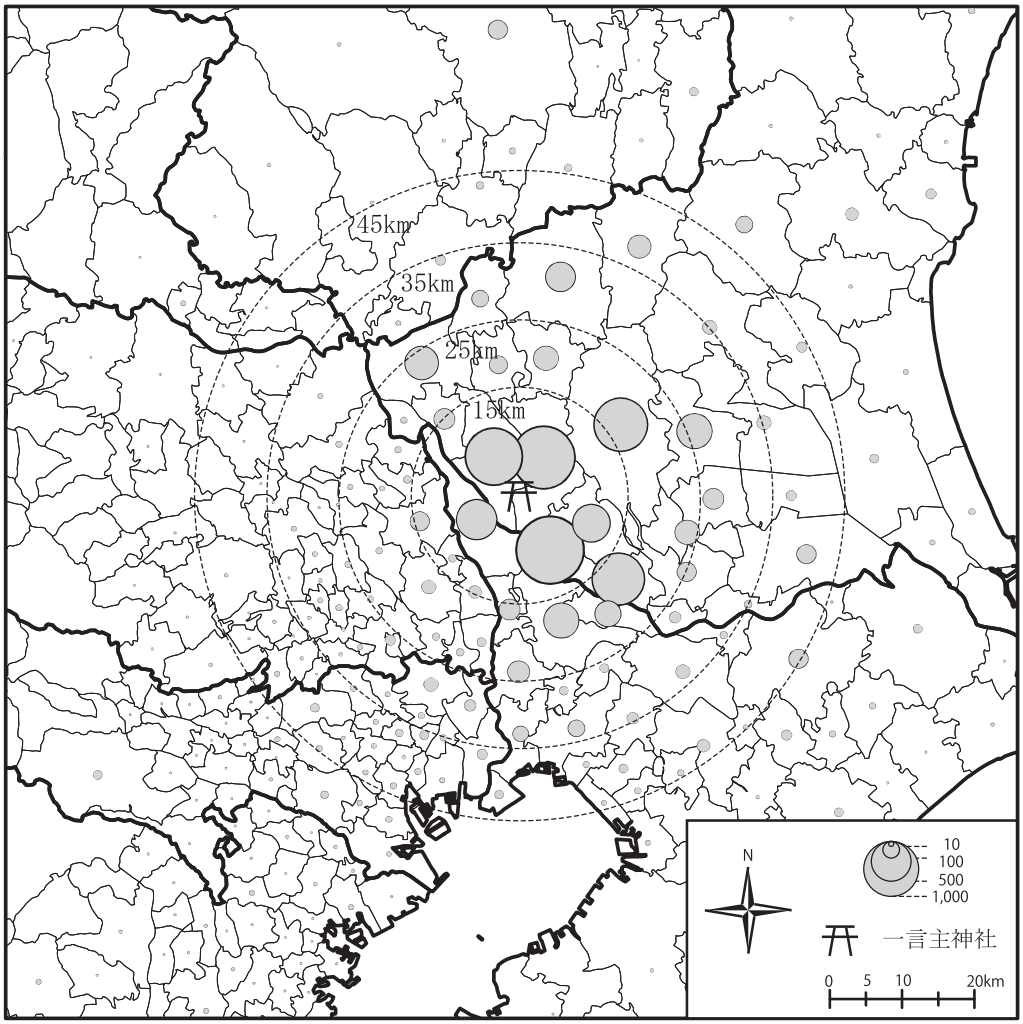
### ３）個人祈祷

個人による祈祷は，講社とは異なり，個人を単位として昇殿祈祷を行うものである．一言主神社の昇殿祈祷は祝祭日問わず毎日受け付けており，祈祷時刻は，午前は10時と11時の２回，午後は12時，13時，14時，15時，16時の５回，一日合計７回執り行われる[8]．一回あたりの祈祷時間は通常20～30分程度であり，一回最大30名ほどが祈祷を受けることができる．祈祷初穂（はつほ）料は一件につ

き，３千円，５千円，１万円，２万円，３万円以上の５種である．ただし，初宮祈願，安産満足，七五三詣は５千円以上からの初穂料となる．玉串奉奠（たまぐしほうてん）は１万円以上の祈祷者，または初宮祈願の祈祷者のみ行っている．祈祷希望者は事前に予約する必要はなく，自身の都合のよい日時に直接神社へ行くことができる．また，これらの情報は一言主神社のホームページ上で公開されており，希望者は祈祷内容やその方法を容易に得られる仕組みになっている．

第９図は個人による昇殿祈祷者の分布を示したものである．分布は一言主神社が所在する茨城県南地域を中心に広範囲に及び，茨城県中央，千葉県，埼玉県，東京都，神奈川県，栃木県南部を主たる外縁部とする一言主神社から半径60km 圏内に分布していることがわかる．都県別にみると，茨城県9,208人，千葉県2,380人，埼玉県659人，東京都505人，栃木県356人，神奈川県127人などとなる．その中で多数の祈祷者が確認できるのは，茨城県南，茨城県西，千葉県北部，埼玉県北部の諸地域である．

昇殿祈祷者の分布をさらに市区町村別にみる




第９図　一言主神社における個人祈祷者の分布（2012年）

（一言主神社社務所所蔵資料により作成）

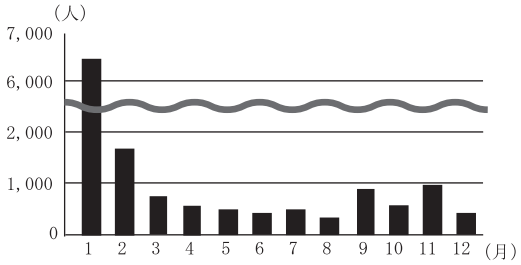
と，茨城県では常総市1,225人・全体の9.2%，常総市と隣接する守谷市1,447人・全体の10.9%，坂東市1,047人・全体の7.8%，つくば市912人・全体の6.8%，取手市865人・全体の6.5%，つくばみらい市461人・全体の3.4%，土浦市393人・全体の2.9%などとなっている．以上の地域の祈祷者数は6,350人であり，全体の47.5%と半数近くを占める．

次に千葉県の分布をみると，常総市と隣接する野田市500人・全体の3.7%，柏市377人・全体の2.8%，我孫子市209人・全体の1.6%，松戸市148人・全体の1.1%などとなっている．埼玉県では，一言主神社から半径15km ほどと比較的近接している春日部市115人が県内の中で最多数である．以上のことから，個人による祈祷者の分布の中心は，一言主神社を中心とした半径25km 圏内であることが看取される．

次に，月別の祈祷者の傾向について述べる．第10図は祈祷者の祈祷日を月別に集計したものである．これによると，１月の祈祷者が6,791人と他の月と比べ顕著であり，全体の50%以上を占める．次に１月の日別の祈祷者をみると（第11図），元日1,312人，２日929人，３日807人と正月三が日に祈祷者が集中しており，この３日間で１月全体の22.8%に達する．前述のように，一言主神社への正月の参拝者は平参り参拝者を含めて15万人ともいわれる．元日は大塚戸町を通る県道251号線が渋滞するため交通規制がとられるという．

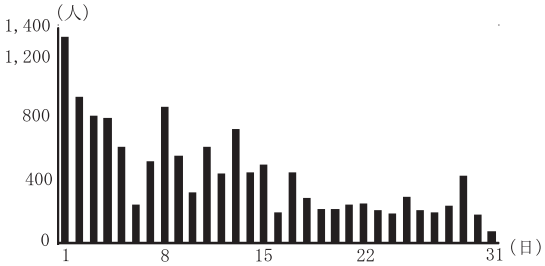
１月の次に祈祷者が多いのは２月1,576人・全体の８%である．同月に祈祷者が多い理由は，節分までに厄を払う必要があることと，受験関係の参拝者が昇殿祈祷を行うためである．また，一言主神社の例大祭が行われる９月は779人・全体の5.9%，以下，11月857人・全体の6.4%，４月495人・全体の3.7%となっている．

次に，祈願内容別の祈祷者の傾向について検討する．個人による昇殿祈祷の祈願項目は，第７表に示したように，家内安全，商売繁盛，心願成就，病気平癒，身体健全，良縁成就，交通安全，厄除け，子宝祈願，学業成就，初宮祈願，安産満足，七五三詣など，全23種である．第12図は祈祷者が祈願した祈願内容の上位９位と下位の14種を「その他」として集約し，示したものである．祈願内容の最多は厄除け21.6%・2,861人である．次は，家内安全16.4%・2,171人であり，以下，交通安全13.6%・1,804人，方除祈願10.8%・1,427人，身体健全8.3%・1,097人となる．前述のように，講社祈祷における祈願内容の多くは家内安全であったのに対し，個人祈祷のそれは厄除けが卓越しており，両者の間に差異があることが確認できる．




第10図　月別の個人祈祷者（2012年）

（一言主神社社務所所蔵資料により作成）



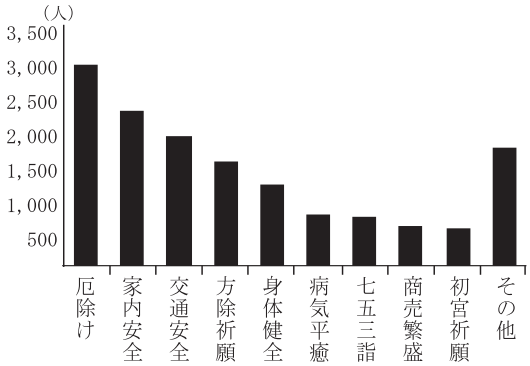

第11図　１月における日別の個人祈祷者（2012年）

（一言主神社社務所所蔵資料により作成）

第７表　個人による昇殿祈祷の祈願項目

| | | | |
|---|---|---|---|
| •家内安全 | •商売繁盛 | •心願成就 | •病気平癒 |
| •身体健全 | •良縁成就 | •進学成就 | •交通安全 |
| •厄除け | •子宝祈願 | •学業成就 | •大漁満足 |
| •工場安全 | •旅行安全 | •方除祈願 | •工事安全 |
| •就職祈願 | •禍事清祓 | •祈願御礼 | •必勝祈願 |
| •初宮祈願 | •安産満足 | •七五三詣 | |

（一言主神社社務所所蔵資料により作成）




第12図　個人祈祷者の祈願内容（2012年）

注）その他は，祈願項目の心願成，進学成就，良縁成就，安産満足，就職祈願，禍事清祓，学業成就，子宝祈願，祈願御礼，工事安全，旅行安全，必勝祈願，工場安全，大漁満足の計14項目を集約したものである．

（一言主神社社務所所蔵資料により作成）

### 4）平参り

平参りは講社祈祷や個人祈祷とは異なり，昇殿祈祷を伴わない祈願形態である．この形態は一言主神社の参拝者のうちの大多数を占めていると考えられる．

第８表は平参り参拝者17名の聞き取り調査をまとめたものである．これによると，平参り参拝者の居住地は，茨城県取手市，坂東市，下妻市，つくばみらい市など一言主神社から近隣の地域を中心としつつ，埼玉県北葛飾郡，千葉県松戸市など比較的遠方からの参拝も確認できる．この分布傾向は先の個人祈祷の分布とほぼ合致している．そのため，平参り参拝者の分布は一言主神社を中心とした半径25km 圏内であると推察することができる．

第８表　一言主神社における平参り参拝者の参拝形態（2013年）

| 番号 | 居住地 | 性別等 | 年齢 | 祈願内容 | 参拝頻度 | 選定理由 | 例祭参拝 | 正月参拝 | 正月参拝の理由 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 茨城県取手市 | 女性 | 70代 | | 月1回 | 習慣 | 毎年 | ある | 混雑を避け3～4日に来る |
| 2 | 茨城県取手市 | 女性 | 50代 | 祈願御礼 | 年1～2回 | ドライブがてら | ある | ある | |
| 3 | 茨城県取手市 | 男性 | 40代 | 転職御礼 | 大安 | 代々お世話になっている | ある | ある | |
| 4 | 茨城県坂東市 | 男性 | 30代 | 祈願御礼 | 時々 | 親から教えてもらい子供の時から知っているため | ない | 無い | 大生郷天満宮へ行く |
| 5 | 茨城県坂東市 | 女性 | 30代 | 身体健全 | 週1～3回 | 親族から教えてもらう。夫の実家は五穀豊穣で参拝する。 | 毎年 | 無い | 混雑する |
| 6 | 茨城県坂東市 | 女性 | 50代 | 特になし | 暇な時 | 境内の雰囲気が好きなので | ある | ある | |
| 7 | 茨城県下妻市 | 女性 | 60代 | 身体健全 | 大事な時 | 妹の旦那から教えてもらい、10年ほど前から来ている | 無い | 無い | |
| 8 | 茨城県下妻市 | 女性 | 60代 | | 年数回 | 36～37年前から。子宝成就に来たら、翌年に子供を授かった | 一度 | 無い | |
| 9 | 茨城県土浦市 | 夫婦 | 60代 | 身体健全 | 年1回 | 40年前以上の子供の時から来ている | 時々 | 時々 | 混雑するため |
| 10 | 茨城県土浦市 | 夫婦 | 50代 | 方除祈願 | 時々 | 子供のころに知った | 無い | 無い | 混むので行かない |
| 11 | 茨城県つくばみらい市 | 夫婦 | 30代 | 初宮祈願 | 初めて | 初宮詣の時にインターネットの検索でヒッし、ホームページに値段や受付時間が書いてあったから | 無い | 無い | 初めて来た |
| 12 | 茨城県つくばみらい市 | 女性 | 40代 | | 月数回 | | 無い | 無い | 混雑するから |
| 13 | 茨城県小美玉市 | 男性 | 20代 | 子宝祈願 | 初めて | 社寺巡りの一環 | 無い | 無い | |
| 14 | 茨城県筑西市 | 夫婦 | 70代 | 進路祈願 | 初めて | 神社巡りの一環 | 無い | 無い | |
| 15 | 埼玉県北葛飾郡杉戸町 | 夫婦 | 60代 | 特になし | 時々 | ついでに寄った | 無い | | |
| 16 | 埼玉県春日部市 | 夫婦 | 60代 | 家内安全 | 月1回 | 兄から教えてもらい知った。何でも願い事を聞いてくれることがお気に入り | 無い | 無い | 混雑するため |
| 17 | 千葉県松戸市 | 女性 | 40代 | 特になし | 時々 | ついでに寄った。実家が守谷市にあり、昔から知っている | 無い | 無い | 地元の神社へ行く |

注）空欄は不明を示す．

（聞き取り調査により作成）

次に，一言主神社への参拝頻度および選定理由についてみると，週１～３回や月数回，月１回，時々など習慣的・定期的に参拝すると回答した者が多かった（番号１，３，４，５，10，12，15，16，17）．また，これら回答者の多くは，親族や知人を介して一言主神社のことを知り，その後，定期的に参拝していることがうかがえた．なかには30～40年以上前から参拝している年配の者も存在した．

一方，初めて一言主神社へ参拝した３名のうち，２名は寺社巡りの一環（番号13，14），１名は初宮祈願を目的に来訪している（番号11）．聞き取り調査によると，３名は一言主神社の看板や広告，ホームページ（祈祷料や受付時間など）をきっかけに参拝に訪れたという．ここからは看板やインターネットを含む広告宣伝が参拝先を選定する上で重要なツールとなっていることがわかる．

次に，例大祭や元日の参拝経験については，定期的な参拝者が混雑を理由に参拝経験がないと回答している（番号５，10，12，16）．上記のように一言主神社では正月に15万人もの参拝者が訪れ，周辺道路は渋滞が激しい．今回の聞き取り調査からは，平参り参拝者はこういった混雑を避ける傾向にあることがうかがえた．また，この点は彼らが例大祭や元旦などの祭事をそれほど重視せず，都合のよい日時を自身で選定し，参拝していると捉えられる．以上のことから，平参り参拝者の中には一言主神社の祭事にあまり拘らず，比較的自由に参拝する者が少なからず存在することが看取される．

### Ⅱ－４　小括

本章では一言主神社の歴史と現在の信仰形態について検討した．一言主神社は祭神である一言主大神の霊威により，古くから地域を越えた信仰を集めてきた．特に例大祭では綱火奉納の見物客を含め，多くの参拝者が訪れた．

現在の一言主神社への参拝行動は，講社祈祷，個人祈祷，平参りの３つに大別できる．そのうち，講社による祈祷は一言主神社から半径25～45km圏内に位置し，個人祈祷者および平参り参拝者は半径25km圏内に集中していることが確認できた．また，信仰者の中で個人祈祷と平参り参拝者は年間を通して存在し，その中で特に正月の時期に多くの参拝者が訪れていた．

一方，講社による参拝は衰退が顕著であるとされる．Ⅱ－３で述べたように2011年の講社数は25社であったが，1960年代後半から1970年代半ばごろにかけては，現在の10倍以上の講社が存在したという（写真５）．また，当時は講員数も多く，なかには２千人以上の講員を擁する講社もあった．しかしながら，1980年代以降になると講元や講員の高齢化，移動手段の発達などにより講社の多くは衰退し，解散したという．

祈願内容については，各人により多様であるものの，講社と個人の昇殿祈祷における祈願内容には差異がみられた．すなわち，講社祈祷では家内安全，商売繁盛，身体健全が多くを占めていたが，一方の個人祈祷では，厄除け，方除祈願，交通安全，病気平癒などが目立つ傾向にあった．ただし，後者については家内安全，学業成就，良縁成就，初宮祈願，安産満足なども多数存在し，一般に多岐に渡るとされる個人祈願の形態は一言主神社においても当てはまる（岩井，1991）．また，特に一言主神社では祭神が言行一致の神であることから，共同祈願ではなく，個人的であり，かつ多様な祈願を行い易いことが看取される．

写真５　1973年当時の講社の様子
（一言主神社社務所所蔵）

## Ⅲ　大塚戸町における社会組織とその活動

本章では大塚戸町の社会組織について述べ，一言主神社と氏子地域である大塚戸町との関係を考察する手掛かりとする．

大塚戸町では区，班，組の各単位の自治組織が存在し，種々の活動が行われている．また，一言主神社と関わりのある組織としては，氏子組織や元旦講といった宗教組織のほか，大塚戸芸能保存会，大塚戸子ども神輿会，一言主神社菊花会が存在する．後３者は信仰組織ではないが，一言主神社と住民との繋がりを強める上で一程度役割を果たしている．そのため，本章ではこれら３者の組織についても取り上げ，検討を加える．

### Ⅲ－１　大塚戸町における自治組織とその活動

#### １）区の組織

区とは大塚戸町を南北に二分した範囲であり，北側を上区，南側を下区と呼ぶ．上区の範囲は大塚戸町の小字集落のうち，遠久保，新田，篠山の３地区を範囲とし，下区は堀込，向山，松山を範囲とする（第３図）．この区はかつて同一の行政区域であった常総市菅生町を併せた計10区のうちの９区と10区にあたる．

区の代表である区長は各区から１名選出される．区長の選出方法は互選であり，当区で信頼の篤い人物であることや年齢を踏まえた上で決定される．任期は３年である．

区長の役割は，主に市と大塚戸町との仲介を行うことである．具体的には，市からの広報や定期刊行物の班長への配布，不法産廃の監視，電灯の点検，当町の改良事項の提出などを行う．また，町内の火災や行方不明者の捜索に際しては，市および班への連絡調整など，区長が中心的な役割を担う．

#### ２）班および組の組織

班は大塚戸町の６つの小字集落と同範囲である．班の代表である班長は輪番制であり，１月１日午前に各班の集会所で催される集会（新年会）により承認される．集会は班別に行われ，班内の戸主全員が出席することになっている．集会では班長の承認および区長の挨拶のあと，親睦が深められる．班長は広報や定期刊行物の各戸への配布，町会費の集金などを行う．町会費は年間１万円であり，この会費から集会所の修繕費などが捻出される．

班の下部組織として班内に２つの組が存在する．組には組頭と呼ばれる代表者がおり，組頭の任期は班長と同じく１年である．住民への聞き取り調査によると，住民同士の日常の関わりは，班および組内に存在する本家や分家の親類（シンルイ）間が基本であるという．また，現在は少なくなったが，以前は行事の際に大本家や親類を中心に集まることが多かった．そのため，現在でもこの班や組のスケールが最も身近な社会組織である．

各班にはかつて青年会や婦人会，老人会といった年齢階梯的性格を有する組織が存在した．また，1960～70年代ごろまでは大塚戸町を単位とした青年団（会）や老人会もあり，各組織には代表者がいた．しかしながら，高度経済成長期以降における就業構造や生活行動の変化などにより，これら組織の多くは衰退，あるいは解散したという．

住民への聞き取り調査によると，現在も活動を継続している組織は，町単位では婦人会，子供会がある．班単位では，遠久保地区の婦人会，観音講（雨引講），堀込地区の青年会，親睦会，雨引講，三峰講，向山地区の青年会，婦人会，三峰講，雨引講，親睦会，松山地区の青年会，親睦会，雨引講などが存在する[9]．なお，町の老人会は５～６年ほど前に解散し，現在は市の組織であるシルバークラブに引き継がれている．以下では，このうち班を単位とする青年会，婦人会，親睦会について言及し，同じく班単位の三峰講や観音講などの講組織についてはⅢ－３で述べる．

青年会は，40～50歳代の壮年層を中心とする組織である[10]．加入年齢に明確な決まりはなく，加入も任意である．現在の会員数は20名ほどである．会長は互選により選出される．青年会の主な

年間行事は，新年会，暑気払い，忘年会，親睦を兼ねた旅行などである．また，必要に応じて重要懸念事項の協議が行われる．かつては青年会主催のバーベキューや盆踊りなども行われた．

婦人会は戦前に組織された愛国婦人会を嚆矢とする．ただ，大塚戸町においては後述する観音講の活動として行われている班が多い．会は月１回から数回の縁日の際に成人女性が集い，親睦を深める．

親睦会は，班内の住民が親睦を深めることを目的に結成されたものであり，厳密には自治組織ではない．ただし，青年会や老人会の解散後にその後継として会が組織された班も存在する．聞き取り調査から確認できた親睦会は，堀込地区の親友会，向山地区の向友会，松山地区の松山旅行会などである．このうち，向友会の主な活動はカラオケや野球大会などである．

### Ⅲ－２　一言主神社に関わる組織とその活動

#### １）氏子組織

氏子組織は一言主神社の氏子地域である大塚戸町全域を範囲とする．同組織は，かつては全戸が加入していた．しかし，戦後以降になると，分家や新住民を中心に未加入の世帯や脱退する世帯もみられるようになった．

氏子組織の代表者である氏子総代は各班から１人ずつ，計６人選出される．氏子総代は本家出身者や班の人徳者が務めることになっており，選出方法は輪番制ではなく世襲制である．任期はなく，班の中には氏子総代を30年以上務める者もいる．また，氏子総代が高齢などの理由で退任する際，班内で適当な者がいない場合には他班の住民が選出されたり，適任者を宮司自ら依頼することもあるという．現在の氏子総代の年齢は50～60歳代である．

氏子総代の主な活動は年末年始と例大祭の手伝いである．そのうち，年末年始の活動について述べると，12月29日から１月３日にかけて，一言主神社境内にて氏子や元旦講へ配布する神札の組み合わせ，および受付の手伝いを行う．この元旦講とは，詳しくは後述するが，１月１日に米や餅などを献納する代わりに一言主神社の神札を貰い受ける住民の集まりのことである．氏子総代のうち４名は神札の組み合わせ，残りの２名は受付の役割を担う．

また，氏子総代は12月末ごろに神宮大麻の各戸への配布も行う．その他，総代会が不定期に開かれ，神社の修繕や財務，神職の異動，氏子総代の役員改選などが話し合われる．

住民への聞き取り調査によると，神社の手伝いは氏子総代が中心であり，各氏子は年間を通してほとんど関わりがないという．春季祭や例大祭などの祭事についても基本的には神社側が主体的に執り行っている．ただ，住民は元旦講や親族・家族間で行われる初宮祈願，七五三詣，受験祈願，病気平癒などの際には一言主神社へ参拝したり，祈祷を受けたりするという．

#### ２）元旦講

元旦講は，講に加入している世帯の戸主が１月１日の早朝，または31日の深夜に一言主神社へ米や餅，灯明料（１千円程度）を献納し，引き換えに家名入りの神札（家内安全や五穀豊穣の札）と御神酒を貰い受けるものである．その際，講員は境内横の結婚式場内の別室にて神札を受け取る．加入者は班などを単位とした集団参拝ではなく，各戸で参拝を行う．

元旦講は明治初期ごろに始められたとされ，戦後に一時中断したものの，その後再開され現在に至っている．講設立の経緯については不明である．ただ，設立と同時期に神仏分離令や廃仏毀釈があり，神社環境の急激な変化に対する氏子関係の維持などが背景にあったものと推察される．なお，大塚戸町では1960年代ごろまで旧正月の２月に一言主神社へ参拝していた．

元旦講の加入に世帯の条件はなく，希望者は氏子総代の計らいにより加入できる．また，氏子ではない者も元旦講に加入することができる．2013年現在の元旦講の加入世帯は，大塚戸町全世帯309戸のうち115戸である．

第13図は，2013年と1968年の班別の加入世帯を示したものである．2013年の加入世帯数は，遠久保地区16戸，新田地区７戸，篠山地区20戸，堀込地区22戸，向山地区27戸，松山地区23戸である．1968年と現加入世帯を比較すると，向山地区で微増しているものの，その他の班ではほとんど増減がみられない．これは先代から継続して加入している世帯が多いためである．

また，かつて講員の家には「甲」と「乙」と呼ばれる家格が存在し，家格により神社への献納物に差異があった．聞き取り調査によると，「甲」は餅または米一升，「乙」は米五合を献納することになっていたという．しかしながら，この甲乙制度は宮司の意向で数年前に廃止され，現在は講員の任意による米または餅の献納となっている．

### ３）大塚戸芸能保存会

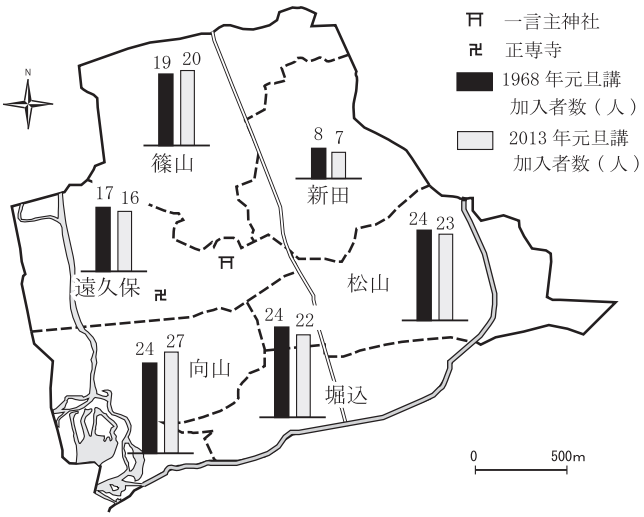
大塚戸芸能保存会（以下，保存会とする）は，９月13日の一言主神社の例大祭の際に綱火を奉納することを目的に設立された組織である．

綱火は江戸時代からの伝統行事であり，当初は一言主神社のほか，向山地区の三峰神社，八幡神社においても行われていた．その後，一言主神社の奉納行事となった．

綱火の準備や奉納を担うのは，明治・大正期のころは大塚戸内の花火祭礼大世話人，部落同世話人，年行司などと呼ばれる人物（役職）であった．大正後期ごろになると主催は青年会に移った．ただし，その運営は先の大世話人などが取り決めた協議事項に基づき，行事を進めるかたちであった（横島，1978）．また，住民への聞き取り調査によると，このころは班によって担当が分かれており，向山地区は「からくり」，堀込地区は「ねり込み」，遠久保地区と篠山地区は「ひょっとこ」，松山地区は「兵法と万燈」の担当であった．

その後，綱火を含む奉納行事は1947年を最後に一時中断したが，当町出身者が発起人となり，1968年に神楽奉納が復活，翌年には「鳴りもの」と「綱火」の２部を内容とする保存会が発足した（横島，1978）．

綱火は三番叟（さんばそう），仕掛け万燈，当日の芸題の３部から構成され，上演に先立って口上が述べられる．毎年の出しものは『芸能目録之図』（1864年刊行）から選定される．第９表は綱火が再開した1969年以降の演目を示したものである．演目は基本的に『芸能目録之図』の中から決定されるが，なかに




第13図　大塚戸町の各班における元旦講の加入者推移
（1968，2013年）

（一言主神社社務所所蔵資料により作成）

第９表　綱火の演目（1969～2012年）

| 年 | 演目名 | 年 | 演目名 |
|---|---|---|---|
| 1969 | アポロ 11 号月面着陸 | 1991 | 那須の与一 |
| 1970 | 三竹山一言主神社由来 | 1992 | 勇壮也鯉滝登 |
| 1971 | 日高川道成寺 | 1993 | 天笠流沙川 |
| 1972 | 佐倉義人宗五郎 | 1994 | 日高川道成寺 |
| 1973 | 神武天皇 | 1995 | 勇壮也鯉滝登 |
| 1974 | 日高川道成寺 | 1996 | 三竹山一言主神社由来 |
| 1975 | 菅公一年乃雷神 | 1997 | 日高川道成寺 |
| 1976 | 堂々三竹山大滝 | 1998 | 勇壮也鯉滝登 |
| 1977 | 堂々三竹山大滝 | 1999 | 日高川道成寺 |
| 1978 | 天笠流沙川 | 2000 | 天笠流沙川 |
| 1979 | 勇壮也鯉滝登 | 2001 | 那須の与一 |
| 1980 | 嗚呼天晴山花咲爺 | 2002 | 白鯉姫（菅生沼の） |
| 1981 | 三竹山一言主神社由来 | 2003 | 八頭の大蛇 |
| 1982 | 日高川道成寺 | 2004 | 日高川道成寺 |
| 1983 | 勇壮也鯉滝登 | 2005 | 天笠流沙川 |
| 1984 | かぐや姫 | 2006 | 勇壮也鯉滝登 |
| 1985 | 日高川道成寺（科学万博） | 2007 | 日高川道成寺 |
| 1986 | 天笠流沙川 | 2008 | 鯉の滝登 |
| 1987 | 三竹山一言主神社由来 | 2009 | 日高川道成寺 |
| 1988 | 那須の与一 | 2010 | 鯉の滝登 |
| 1989 | 勇壮也鯉滝登 | 2011 | 日高川道成寺 |
| 1990 | 日高川成寺 | 2012 | 菅生沼白鯉姫伝説 |

（大塚戸芸能保存会資料により作成）

はアポロ11号月面着陸（1969年）や科学万博（1985年）といった当年に話題となった事象を対象とすることもあった．

また，綱火の前には社殿において神楽舞が奉納される．神楽舞は，四方固め，御幣の舞，鈴の舞，喜の座から構成され，綱火に遅れて奉納行事に加わったと伝えられている（水海道市教育委員会編，1986）．

2012年現在の保存会の会員は24名である．保存会発足当時は60名ほどいたという．保存会は大塚戸町以外の住民でも加入することができるが，現会員のほとんどは大塚戸町の住民である．会員の年齢構成は第10表にあるように，60歳代が７名，70歳代が10名，80歳代が３名であり，高齢者が多数を占めている．

第11表に保存会の年間の活動日程を示した．保存会は綱火や鳴りものの奉納時期を中心に準備と練習を行っている．具体的に，４月は春季祭に鳴りもの奉納があるため，１週間ほど前から練習が始められる．５月から７月にかけては，例大祭に向けた鳴りものの練習が毎月２回行われる．綱火については，８月上旬の演目決定後，８月第１日曜日より盆を除く毎週日曜日に準備が進められ，９月13日の綱火奉納に臨む．当日は一言主神社で筒払いと呼ばれる安全祈願を行ったあと，午後７時半ごろより綱火が奉納される．綱火の際の役割は，操作を行う者７名，三番叟７名である．この９月の綱火のあと，10月に「あすなろの里」の秋祭りに参加し，鳴りもの奉納を行う．

上記してきたように，これまで例大祭と綱火奉納は９月13日に行われてきた．しかしながら，

第10表　大塚戸芸能保存会会員の年齢内訳（2013年）

| 年　齢 | 会員数 |
|---|---|
| 40～49 | 3 |
| 50～59 | 1 |
| 60～69 | 7 |
| 70～79 | 10 |
| 80～89 | 3 |
| 合計 | 24 |

（大塚戸芸能保存会資料により作成）

第11表　大塚戸芸能保存会における年間活動日程

| 月 | 事項 |
|---|---|
| 4 | 役員会　総会 |
| | 一言主神社春季例祭 |
| 5 | 鳴物練習（第１金曜,第３金曜）,役員会 |
| 6 | 綱火道具確認と修理依頼　研修会 |
| | 鳴物練習（第１金曜,第３金曜） |
| 7 | 鳴物練習（第１金曜,第３金曜） |
| 8 | 綱火研修会,一言主神社祭礼芸題決定 |
| | 祭礼準備（第１日曜日より毎週日曜日） |
| 9 | 秋季例大祭 |
| 10 | あすなろの里秋祭り |
| 12 | 反省会 |
| 1 | 役員会 |
| 3 | 役員会 |

（大塚戸芸能保存会資料により作成）

2013年に神社側や保存会の意向などにより日程が変更され，13日に例大祭，14日に綱火奉納という形式が初めて試みられた．また，14日は祝奉祭と称され，綱火奉納のほか，岩手県北上市の伝統芸能鬼剣舞（おにけんばい）の奉納や，常総市在住の「YOSAKOI なごみ」の踊り，水戸雅楽会による雅楽演奏と巫女舞なども催された．

### ４）大塚戸子ども神輿会

大塚戸子ども神輿会（以下，子ども神輿会とする）は毎年夏に催される子ども神輿祭の運営を行う組織である．子ども神輿祭は，同町ではこれまで子どもや地域を対象とした神輿や山車などがなく，また子どもたちが伝統的な行事を体験する機会もなかったことから，子供会が呼びかけ人となり，1993年より始められたものである．一言主神社では神輿祭を始めるにあたり，神輿の購入を行うなど中心的な役割を果たした．

子ども神輿祭は，大塚戸町内の小学１年生から６年生50～70人ほどを対象に，例年７月第４日曜日に行われる．2005年度の資料によると，当日は一言主神社での神幸の神事と安全祈願のあと，午前９時半に神社を出発し，新田地区，篠山地区，遠久保地区北を経て正午ごろに神社に到着する．巡回先の集会所にはそれぞれ20分ほど滞在し，飲み物やかき氷が提供される．神輿巡回のルートは，祭り開始当初は大塚戸町の６班を全て巡るものであったが，2000年以降は上区と下区に分け，隔年交代で巡っている．

子ども神輿会では，６月末に一言主神社会議室にて総会を開き，役員改選や決算報告，神輿巡回の工程，事前準備の確認などが話し合われる．事前準備は，各班の役員が祭の２日前までに全戸に寄付金（１千円）を依頼することと，当日午後に催されるビンゴゲームの景品購入などである．祭り当日は，新規役員と前役員は夫婦で集合し，それぞれ「みこし付き」と「昼食賄い」に分かれる．このうち，巡回する地区の役員は基本的に「みこし付き」,それ以外は「昼食賄い」とされる．また，その際，新規役員は包丁とまな板を持参する．

子ども神輿祭は大塚戸町の子どもたちに伝統行事の体験を目的に始められた．また，一言主神社においても地域を担う子どもたちへの教育的観点から賛同し,当初より積極的な協力を進めてきた．一方，近年になるとこのような子どもを対象とした目的から視野が拡大し，地域コミュニティの再生や活性化の方途として神社と住民の双方から重視され始めている．その中で，一言主神社の現禰宜は自身の研修先であった東京下町において，氏神である神社と氏子が密接に結びついていることに感銘を受け，神社を介した地域コミュニティ再生の一環としてこの神輿祭を重要視しているという．

また，最近では，神輿祭の際に子どもによる太鼓演奏や民謡を行い，また例大祭でも演奏を披露することにより，綱火の後継者育成や地域の活性化を促したいとの提言が保存会員の中で行われている．このように現在では，子ども神輿祭を契機とした神社と地域との新たな紐帯が模索されている．

### ５）一言主神社菊花会

一言主神社菊花会は菊花祭への菊の提供や栽培，管理を目的に設立された組織である．菊花祭は10月25日から11月24日にかけて一言主神社境内で開催される．当期間中は七五三詣と重なること

もあり，毎年多くの参拝者が訪れる（写真６）．また，最近は七五三詣以外にも近隣の老人福祉施設からの参拝者が多いという．

菊花祭は1984年ごろに現在の宮司の呼びかけで始まり，菊花会も同時期に結成された．結成当初は70名ほどの会員がおり，そのほとんどは菊栽培を趣味とする大塚戸町の住民(女性が中心)であった．その後，高齢などの理由で会員数は減少し，現在は10名程度である．現会員は向山地区２名，新田地区２名のほか，守谷市１名，坂東市岩井１名，常総市坂手町１名，つくば市真瀬１名などとなっている．また，菊花会の会長は設立当初より一言主神社宮司が務めている．

菊花会では毎年５月20日ごろに役員会と苗分けを行い，その後，10月の開催に合わせ各戸において栽培・剪定に取り組む．会員の中には一人で200株ほど栽培し，そのうち出来栄えのよい物を展示するという．現在は全体で400株ほどが出展されている．

菊花祭の会場設営は，かつては会員自らが行っていた．しかし，現在は高齢化や会員数の減少により大工に依頼している．また，期間中には２名が交代で水やりなどの世話を行う．設営費や諸経費など一回の菊花祭で60万円ほどの費用がかかるが，これらの費用は全て一言主神社が負担している．

写真６　菊花祭の様子
（2013年11月　卯田撮影）

### Ⅲ－３　その他の信仰組織

#### １）伊勢講

大塚戸町には町を単位とした伊勢講が存在する．伊勢講は講員から集められた積立金(入会金)をもとに伊勢神宮へ参拝するもので，積立金が満額になる約５年ごとに講員の有志20～40名ほどで参拝を行っている．

講の代表者は２名存在し，彼らは主に講員の勧誘や積立金の集金などを行う．現在は100名ほどが積立金を納めている．講員の年齢は40～50歳代の壮年層が中心である．また，伊勢神宮へは一言主神社の宮司と禰宜が先達として同行し，外宮および内宮の案内を行う．

2010年の「伊勢講旅行」の資料によると，この時は講員40名が参加し，５月29日から31日にかけて伊勢神宮への参拝旅行が行われた．第12表は参拝旅行の日程を示したものである．これによると，当日は午前５時半に一言主神社に集合，旅行安全祈祷のあと出発し，バス・新幹線を乗り継ぎ当日午後より伊勢神宮外宮および内宮に参拝，夕食は宴会を催している．２日目は二見が浦を見学後，午後から熊野古道を散策，その後熊野本宮大社に参拝し，勝浦で宿泊した．最終日は，午前より大門坂，那智の滝，那智大社に参拝し，その後帰路に着くというコースであった．以上の経路から，旅行は伊勢神宮を中心に熊野や那智などへの参拝，観光を行い，夕食後は講員同士の親睦を深めていることがうかがえる．伊勢講のような代参講は時代を経るにつれて，次第に行楽的･レクリエーション的要素が強まったとの指摘があるが(桜井，1962)，この点は大塚戸町においても当てはまる．

伊勢講は代参終了後に一旦解散となり，次期役員の選出が行われ，再度積立金が集められる．また，余剰金は欠席した講員に返金されるほか，先達を務めた一言主神社への礼として参宮を記念した石碑や掲示板，看板などが奉納される．写真７は1979年の参拝記念の石碑である．石碑には「大塚戸町伊勢講伊勢四国参拝記念」とあり，この時は伊勢神宮のほかに四国旅行も行われていた．2010年の団参後は境内入口に掲示板が奉納された．

第12表　伊勢講旅行の日程（2010年）

| 5月29日　土曜日 | | 5月30日　日曜日 | | 5月31日　月曜日 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 時刻・移動手段 | 行程・内容 | 時刻・移動手段 | 行程・内容 | 時刻・移動手段 | 行程・内容 |
| 早朝 | 大塚戸発 | 8:15 | ホテル発 | 8:30 | ホテル発 |
| ↓バス | | ↓バス | | ↓船舶 | |
| 8:03 | 東京駅発 | 8:40 | 二見が浦（観光） | 8:45 | 勝浦桟橋 |
| ↓新幹線 | | ↓バス | | ↓バス | |
| 10:30 | 名古屋駅発 | 12:00 | 鬼ヶ城にて昼食 | 9:30 | 大門坂（散策） |
| ↓バス | | ↓バス | | ↓徒歩 | |
| 12:30 | 伊勢神宮　外宮（参拝） | 14:30 | 熊野古道（散策） | 10:00 | 那智の滝（観光） |
| ↓バス | | ↓徒歩 | | ↓バス | |
| 13:15 | 昼食 | 16:00 | 熊野本宮（参拝） | 10:35 | 那智大社（参拝） |
| ↓徒歩 | | ↓バス | | ↓バス | |
| 14:15 | 伊勢神宮　内宮（参拝） | 17:10 | 勝浦桟橋 | 11:40 | 昼食 |
| ↓バス | | ↓船舶 | | ↓バス | |
| 16:50 | ホテル | 17:20 | ホテル | 18:22 | 名古屋駅発 |
| | | | | ↓新幹線 | |
| | | | | 20:10 | 東京駅着 |

（一言主神社社務所所蔵資料により作成）

写真７　伊勢講の記念碑
（1979年２月建立）
（2013年７月　卯田撮影）

**２）三峰講**

Ⅲ－１で述べたように，かつて大塚戸町では班を単位とした社会組織が多数存在した．しかしながら，それらの多くは衰退･解散した．その中で，講組織に関しては三峰講，観音講が現在でも半数ほどの班で続けられている．以下では住民への聞き取り調査から確認できた三峰講，観音講，念仏講の活動について述べる．

三峰講は，埼玉県秩父市に所在する三峰神社を信仰する講組織である．三峰神社は天平年間に役小角によって開かれたと伝えられ，特に修験者からの崇敬が篤い．民間では火防・盗難・魔除けの神として，その信仰は関東地方を中心に遠く甲州や信州にまで及ぶとされる（三木，2010）．

住民への聞き取り調査によると，大塚戸町において現在三峰講の活動を行っているのは堀込地区と向山地区である．そのうち，堀込地区の三峰講（堀込三峯講）についてみると，地区には各戸から選ばれた５名の代表者が存在し，毎年４月に秩父の三峰神社へ代参を行う．参拝の際には神社から神札・御眷属（ごけんぞく）札を貰い受け，この札を各戸の講員へ配布する．堀込地区ではこういった活動を100年以上前から続けている．

かつて大塚戸一帯では火事が多発したこともあり，堀込地区や向山地区だけではなく，各集落に三峰講が存在した．また，三峰神社を信仰している集落では不思議と火事がほとんどなかったという．

**３）観音講**

観音講は班によって雨引講，六夜講とも称される．講名の雨引という名称から茨城県桜川市の雨引観音（楽法寺）への信仰であると考えられる．聞き取り調査により講の存在が確認できたのは，遠久保地区，堀込地区，向山地区，松山地区の４

班である．

観音講は，縁日（主に日曜日）に女性が各班の集会所に集い，親睦を深めるものである．その際，担当（役員）の者が食事の準備を行う．参加する女性は婦人会の会員を兼ねている者が多く，婦人会の活動の一環として行われる班もある．講は２ヶ月に一度，年８回ほど催されていたが，現在は少なくなったという．

### ４）念仏講

念仏講は月１回，または年数回ほどの頻度で班の集会所や大塚戸町内に所在する正専寺（浄土宗）などに集まり百万遍を唱えたり，町内の葬儀に際して供養の念仏を唱えたりするものである．参加者は定年後や隠居の者が中心であるため，老人会の活動として行われることもある．

念仏講は，かつては町や班を単位とする組織のほか，２つの班が共同で行う講も存在した．そのうち，堀込地区と松山地区が共同で行っていた講は堀松庵堂敷念仏会と呼ばれ，春の彼岸（３月），盆（８月），秋の彼岸（９月），11月の年４回講が開かれた．講員は講開催ごとに会費200円と，灯明料１千円から３千円程度を納めた．しかしながら，こういった念仏講は，参加者の減少や高齢化，また葬儀が葬儀場（セレモニーホール）に移り，念仏を唱える必要が無くなったことなどもあり，現在は老人会も含めていずれも衰退，形骸化している．先の堀松庵堂敷念仏会も2010年３月に解散した．

## Ⅳ　大塚戸町における一言主神社信仰の特性

本章では大塚戸町における一言主神社信仰の特性について検討する．その際，地域における信仰の重層性・複合性という日本の宗教構造の特性を踏まえ，ここでは特に前章で述べた地域内に存在する様々な信仰や組織との関係，およびそのスケールに注目し，考察を進める．

大塚戸町では区，班，組を単位とした社会組織が存在し，各単位で様々な活動が行われていた．その中で，住民同士の日常生活において最も身近な関わりは，本家や分家の親類（シンルイ）間であり，その単位は区ではなく，班や組のスケールであった．

班には年齢階梯組織である青年会，婦人会，老人会や，三峰講，観音講，念仏講などの社寺参詣講，仏教講などの多数の組織が存在した．また，一言主神社の例大祭日に奉納される綱火の準備は，かつては「からくり」や「ねり込み」，「ひょっとこ」などが班を単位に分担されていた．加えて，明治末に一言主神社へ合祀される以前は各集落に神社が存在しており，住民は一言主神社への信仰とともに，集落単位の神社への信仰や関わりをもっていた．こういった点から，大塚戸町では日常的な社会生活や住民間の結びつきは，主として班をスケールに構成されていると考えることが可能である．

では，一言主神社と住民とはどのように関係しているのか．一言主神社は大塚戸町全域を氏子地域とし，同域を単位とする氏子組織が存在する．氏子組織の代表である氏子総代は各班から１名ずつ，計６名が選出される．氏子総代の選出方法は，各戸が持ち回りで選ばれる輪番制ではなく，世襲制である．代表者は本家出身者や人徳者など，班において中心的な立場の者が選ばれる．また，本家出身者が選出されることから，氏子総代は班内において階層性や家格の上位の者が担っていることがわかる．

以上のような世襲制を重視した選出方法や，階層性の上位者による氏子総代の継承などの特性を踏まえると，班を日常生活の単位とする大塚戸町の住民にとって，一言主神社は班とは異なる上位のスケールに位置していることが看取される．この点は，年末年始や例大祭などの手伝いが氏子総代中心であり，各氏子は年間を通して一言主神社とほとんど関わりがないことからも確認することができる．

一方で，氏子や住民が一言主神社と全く関わりがないわけではない．Ⅲ－２で言及したように，住民は親族や家族間における人生儀礼や受験祈

願，病気平癒などの際には一言主神社へ参拝したり，祈祷を受けたりする．また，大塚戸町では元旦に一言主神社へ米や餅などを献納し，神札を貰い受ける元旦講というシステムが存在する．参拝の際には，班などによる集団参拝ではなく，各戸別で参拝を行っている．この元旦講の例からは，各戸を単位とした一言主神社との関係を指摘することができる．

また，班を単位とした信仰組織においても一言主神社との関わりはみられる．Ⅲ－３で記したように，堀込地区では三峰講が存在し，毎年の三峰神社への代参や各戸への神札配布などが現在においても続けられている．この三峰講は班をスケールとした活動である．ただ，一言主神社への聞き取り調査によると，三峰（峯）社の建て替えの際には一言主神社がお祓いを行うという．近年では2011年５月の三峯社の建て替え，６月の新築工事において，いずれも一言主神社によるお祓いが執り行われた．

以上の点から，大塚戸町では，住民間の日常的な関わりである班をスケールとした社会組織や三峰講などの信仰組織がまず存在し，その上位に一言主神社が位置していること，他方で一言主神社に対しては元旦講や通過儀礼、講組織などによる戸主別，個人別，または組織的な関わりがみられるなど，住民は一言主神社と重層的・複合的な関係を有していることが明らかになった．こういった地域における信仰の「重層的構成」は，民俗学などを含む既往研究でも指摘されており（桜井，1962：183；堀，1951；原田，1975など），大塚戸町と一言主神社との関係においても同様の様態を指摘することができるだろう．

## Ⅳ　結論

本研究では，崇敬型神社における氏子地域の信仰の特性について，地域内に存在する社会組織や信仰組織との関係に着目することで明らかにしてきた．

大塚戸町に所在する一言主神社は祭神である一言主大神の霊威により，古くより地域を越えた信仰を集めてきた．現在の同社への参拝行動は，講社による祈祷，個人による祈祷，平参りの各信仰者が存在し，そのうち講社祈祷は一言主神社から半径25～45km 圏，個人祈祷は25km 圏内に参拝者が集中していた．また，個人祈祷と平参りは年間を通して確認でき，特に正月の時期には茨城県南地域を中心に，東京や神奈川，栃木など遠方から多数の参拝者が訪れていた．

一言主神社の氏子地域は神社が鎮座する大塚戸町全域を範囲としており，同町には氏子総代を代表とする氏子組織が存在する．氏子組織は，かつては全戸加入であったが，戦後以降は分家や新住民の増加により，未加入や脱退する世帯がみられる．氏子総代は自治組織の一つである班から各１名ずつ，計６名選出される．選出方法は世襲制である．

大塚戸町では住民同士の身近な関わりは班をスケールとするものであった．班には社会組織や信仰組織の多くが存在し，様々な活動が行われていた．そのような中で，一言主神社は班内で選出される氏子総代の世襲制や階層性などの特性から，班よりも上位のスケールに位置していることが指摘できた．

ただ一方で，住民は元旦講における戸主別の参拝や，家族・親族間での人生儀礼などにより，一言主神社との戸主別，また個人をスケールとした関係についても有していた．加えて，堀込地区の三峰講の事例からもうかがえたように，班単位の信仰組織においても一言主神社との関係がみられた．このように一言主神社との関係は，各スケールにおいて差異がみられることが確認できた．以上のことから，大塚戸町の住民は一言主神社と重層的・複合的な関係性を有していることが看取された．

他方で近年，一言主神社と住民の間で新たな紐帯が生じつつある．大塚戸町では毎年夏に子ども神輿祭が開催されている．前述のように，この祭りは子どもへの伝統行事の体験を目的に30年ほど前に始められたものである．その際，一言主神社

では祭り開始当初から協力し，現在に至るまで運営面において大きな役割を果たしてきた．また，近年では，当初の子どもを対象としたものから，地域コミュニティの再生や活性化の方途として，神社と住民の双方から重要視され始めている．こういった両者の動きは，子ども神輿祭を介した，従来の氏子関係とは異なる新たな紐帯の創出として位置づけることができるだろう．

加えて，この点は近年，宗教社会学などで注目されつつある地域再生における神社や寺院の役割の具体的実践として捉えることも可能である．黒崎（2011）や藤本（2012）は，少子高齢化や社会関係の希薄化，「無縁社会」化などによる地域コミュニティの衰退に対し，地域の神社や寺院がその解決に向けて重要な役割を担う可能性があることを指摘し，各地で様々な取り組みが行われていることを述べている．

その中で，広井（2005）は神社を社会資源として福祉や環境学習に活用している例を挙げ，コミュニティの再構築を図る上で神社がネットワークづくりの基礎になることを示唆した．また，藤本（2009）は子育て支援の「場」としての神社の活用の可能性について展望した．これらの報告にあるように，近年，地域の宗教は社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）を醸成する媒体として新たに機能しつつある（稲葉・櫻井編，2009）．

以上の文脈から大塚戸町における一言主神社と住民との新たな結びつきを捉え直した場合，その媒介である子ども神輿祭は大きな可能性を含意したものであると考えることができる．そのため，今後も両者の関係性について注視していく必要があるだろう．

本稿の作成にあたり，大塚令昌氏（一言主神社宮司），大塚裕一氏（一言主神社禰宜）をはじめとする一言主神社関係者の皆様には社務所所蔵資料の閲覧に際し多大なるご協力を賜りました．また，横島充氏，横島進氏，戸塚三雄氏，中村仲氏，横島美知子氏ほか，大塚戸町の住民の方々には貴重なお話をお伺いすることができました．なお，資料の入力・整理に関して筑波大学技術補佐員の増山泰子氏にご協力頂きました．末筆ながら，記して御礼申し上げます．

本稿の骨子は2013年９月に開催された日本地理学会秋季学術大会（福島大学）において発表した．

［注］

1）山岳宗教を対象とした信仰圏研究の成果と課題については，金子（1995）を参照．
2）一言主神社のパンフレット（『下総国三竹山鎮座　一言主神社由来』）の紹介文より引用．
3）これらの祭事以外に，先代の宮司の時代には12月に湯立の神事があった．
4）昇殿祈祷とは神社の社殿に昇り，神官の祈祷（祝詞（のりと））を受ける行為のことを言う．祈祷終了後，祈祷札と徹下品（神酒，かつお節）などを受け取る．
5）「祈祷申込書」は正式には「祈禱申込書」であるが，以下では簡易慣用字の祈祷を用いる．
6）なお，４月の春季祭の際には，10時から16時まで毎時行われる．
7）講社資料は例大祭に昇殿祈祷を行った講社のみであるが，例大祭に参拝する講社が９割以上を占めることから，以下では講社全体の傾向として扱う．
8）祈祷時刻は例大祭のほか，春季祭，七五三詣，正月などにより変更される．春季祭は10時から16時まで毎時，元日（2014年予定，以下同じ）は午前０時から午後17時，１月２日から12日は９時から16時まで毎時，13日以降は平常通り執り行われる．
9）ただ，これらの中には班ではなく有志で活動を行っている組織もあると考えられる．
10）以下の青年会と婦人会の記述は松山地区の事例である．

［文　献］

浅香幸雄（1959）：信仰登山集落の形成－木曽御岳の場合－１－．東京教育大学地理学研究報告，**3**，185-243.

浅香幸雄（1963）：富士北口の上吉田・川口の御師町の形態とその構造－信仰登山集落の形成 第２報－．東京教育大学地理学研究報告，**7**，55-82.
浅香幸雄（1967）：大山信仰登山集落形成の基盤．東京教育大学地理学研究報告，**11**，179-196.
伊藤省三編（1918）：『利根川勝地案内』伊藤省三.
稲葉圭信・櫻井義秀編（2009）：『社会貢献する宗教』世界思想社.
茨城県神職会編（1940）：『茨城県神社誌』茨城県神職会.
岩井宏實（1991）：個人祈願と共同祈願．桜井徳太郎・大濱徹也編『講座神道　第３巻　近代の神道と民俗社会』桜楓社，120-154.
岩鼻通明（1983a）：出羽三山をめぐる山岳宗教集落．地理学評論，**56**，535-552.
岩鼻通明（1983b）：出羽三山信仰圏の地理学的考察．史林，**66**，681-726.
岩鼻通明（1992）：『出羽三山信仰の歴史地理学的研究』名著出版.
岡田荘司（1994）：霊威神と崇敬講．小野康博ほか編『日本宗教事典　縮刷版』弘文堂，73-74.
金子直樹（1995）：日本における信仰圏研究の動向－山岳宗教を中心にして－．人文論究，**45**，104-117.
金子直樹（1997）：岩木山信仰の空間構造－その信仰圏を中心にして－．人文地理，**49**，311-330.
黒崎浩行（2011）：宗教文化資源としての地域神社－そのコンテクストの現在－．現代宗教，**2011**，45-58.
阪野祐介（2003）：新潟県・八海山を対象とした山岳信仰の展開－大崎口崇敬者の分布を中心に－．歴史地理学，**45**(5)，1-18.
桜井徳太郎（1962）：『講集団成立過程の研究』吉川弘文館.
常総鉄道株式会社編（1913）：『常総鉄道名勝案内』常総鉄道.
千田靖子（2005）『図説からくり人形の世界』法政大学出版局.
筒井　裕（1999）：秋田県における太平山三吉神社の信仰圏の空間構造－講中を指標として－．秋大地理，**46**，27-32.
筒井　裕（2001）：鳥海山大物忌神社の信仰圏に関する地理学的研究．秋大地理，48，1-8.
筒井　裕（2004）：山岳信仰の神社における講組織の形成－国幣中社大物忌神社を事例に－．歴史地理学，**46**(1)，32-49.
筒井　裕（2009）：山岳崇敬者の参拝活動にみられる地域的差異とその形成要因－鳥海山大物忌神社の信仰圏と講中に注目して－．原淳一郎ほか『寺社参詣と庶民文化－歴史・民俗・地理学の視点から－』岩田書院，65-108.
筒井　裕(2012)：飯豊山信仰圏の形成に関する地理学的考察．西海賢二編『山岳信仰と村落社会』岩田書院，221-237.
堤　一郎（1970）：信仰三編．茨城の民俗，**9**，149-150.
冨村壽夫（2000）：『水海道の神社と寺院』ウェル・ビーイング・コンサルタント.
長野　覚（1979）：山岳宗教（修験道）集落－英彦山の構造と経済的基盤－．駒澤地理，**15**，5-51.
長野　覚（1987）：『英彦山修験道の歴史地理学的研究』名著出版.
野口如月（1918）：『北相馬郡志』北相馬郡志刊行会.
原田敏明（1975）：『村の祭祀』中央公論社.
広井良典（2005）：『ケアのゆくえ　科学のゆくえ』岩波書店.
廣本祥己（2004）：那須岳白湯山・高湯山信仰の分布について．歴史地理学，**46**(1)，15-31.
藤本頼生（2009）：子育て支援と境内地の活用－神道的福祉の実現の場としての神社の可能性－．國學院大學伝統文化リサーチセンター研究紀要，**1**，113-128.
藤本頼生（2012）：地域社会と神社．大谷栄一・藤本頼生『叢書　宗教とソーシャル・キャピタル　第２巻　地域社会をつくる宗教』明石書店，44-68.
堀　一郎（1951）：『民間信仰』岩波書店.
松井圭介（1995）：信仰者の分布パターンからみた笠間稲荷信仰圏の地域区分．地理学評論，**68A**，345-366.

松井圭介（2003）：信仰間競合からみた金村信仰圏の空間的意味．人文地理学研究，**27**，49-70.
三木一彦（2010）：『三峰信仰の展開と地域的基盤』古今書院.
水海道市史編さん委員会編（1985）：『水海道市史　下巻』水海道市.
水海道市教育委員会編（1986）：『水海道の文化財－国・県・市指定－』水海道市教育委員会.
森岡清美（1987）：『近代の集落神社と国家統制－明治末期の神社整理－』吉川弘文館.
横島広一（1978）：『大塚戸の花火祭－一言主神社の葛城流からくり綱火－』崙書房.